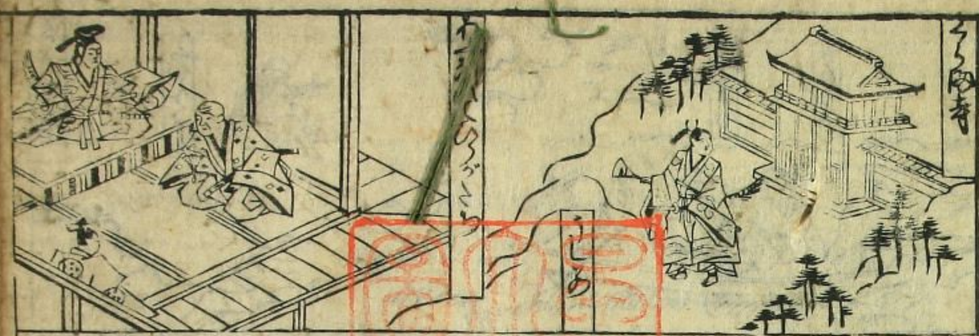
倭年代記

下

り伊4
923
2上

門 リ伊4
號 923
巻 2



二月久我内大臣雅通薨ず年五十八○六月平重盛
公三ヶ条の家の宗山よりくる○天下疫癘
丙申二年　七月十七日六條院崩ず壽十二ヶ月
建長　此前ず○加賀の師なるしえいざん末寺相伝の
寿し幸菊　丁酉　治承元　四月山門の衆徒日吉の神輿を
奥と内裏より入りて師なるべき牛の師匠と
流刑ず○門跡八日大内裏やくるまうら舊製より
らず○五月山門の衆徒三井の西と仲直りあるべし○六
月朔日法皇ごくらくへ成給兼頼俊寛と鬼界
ゐるよりかへり成給ふ成親へ後あり成給て朱雀
と内と死西光法師あるべし婚男師なる男師経も殊
ひるふるる年象と内かせくるとて内裏よりの
戊戌二年　正月彗星ひがしにあらわる○三月若宮寺
炎上○十一月十二月伊豆平家より言仁親王ひ

と安徳天皇とのへ十二月東宮ニ立○同月清盛が
むすめへ其源頼政従三位ニ叙る○鬼界が嶋の流
人成経康頼ゆるされて帰洛す俊寛ハ死おもて
もれてゆるされず其嶋にて死る　己亥三年
三月高倉の院の太子御誕生○五月洛中つむじ風
家をふきたふす○六月平重盛くわいけいし
て早世という人柄頼もしかりしが○八月朔日つゐに
薨ぜらる四十二歳人かなしむ○七月ね軍塚なる○十
一月地しん○同月清盛福原より上洛して法皇を
鳥羽の離宮におしこめ公卿殿上人四十二人の官をけ
けづる　庚子四年　二月位を東宮ニ譲り給ふ
にゆづりて新院と称し奉る○三月新院厳島へ御かう
くしゆひんゆるさる○四月源頼政嫡子伊豆守仲綱と
ともに法皇第二の皇子高倉の宮をすゝめたてまつりて平家

とかうばさんとせらるゝあらはれて宮ハ三井寺平等院
まて平家の討手したゝかに頼政父子うたれ宮も七十五
高倉の宮ハ南都へおもむき給ふ所にて討れ給ふ
○五月北国の兵ども三井寺へ兵をおこし六月清盛ハ福原にて
都を福原へうつさる○同月源頼朝伊豆の国小
て義兵をあげ石橋山にて合戦○十月清盛が孫八まんぐ
再興○木曽義仲信濃より兵をおこす○駿河富士河
合戦○九郎義経奥州より上洛し黄瀬河にて頼
朝と来会す○十二月清盛ニ子を平家へ
○清盛が五男重衡東大寺興福寺をやきはらふ

（八十一）

安徳天皇

諱ハ言仁と申す高倉院第一の皇子なり母ハ中宮
平徳子といふ建礼門院と号す平相国清盛がむ
すめなり在位三年西海に沒せらる

(同)陽成の基通 拾改 実白 藤原氏 摂家 太政大臣
(即)人皇八拾九代 ちよし八百十三年 来の孝 永 浮 懸 八年 人 新

(弱)元 禄 二年 庚午 まで 四百八十一年 ほどの

正月十四日 名 義 上皇 崩 ○ 寿 北一さい 清 つ ゆ ゆ に 孫 の

国二月四日 平 ね 必 清 盛 薨 ○ 六十四 次 男 宗 り

家督 つ ぐ そ し 西八條 の 館 薨 上 ○ 五月 ち こと

ほ る が 長 の 宗 と 遣 宣 ○ 月 北五日 宮 星 あ ろ

壬寅 寿永 元 二月 ち と 神 賓 と 仲 聖 大 神 宣 よ な び

○ 八月 れ 初 の ち ま く 男 頼 家 ん ち り 母 の 平 改 ま く 云

小 條 時 改 が 山 め の あ り ○ ち と 江 海 の 弁 財 天 と

ん ま う 癸 卯 二 年 正月 宗 盛 土 佐 の 流 人 希 宗

を と の を 希 宗 の 頼 朝 の お そ ち ○ 四月 平 氏 木 曾 宗

仲 し 越 中 の 倶 利 伽 羅 が 賀 の 篠 原 ま た く ん 平 家

敗 軍 し て 飯 島 そ こ の と 兄 侯 肥 系 久 秋 義 宗 盛 ち

ぞ よ ○ 七月 義 仲 上 洛 し え い ま ま ま ま り て 系 知 を 見 か

ら も 平 氣 ら れ よ も と ま れ て 立 と ど ち り ち り て 知 を

か ち 猛 ち に か も ひ く 法 皇 ひ そ ち に 叡 山 義 仲 が 陣 を

え ゆ き ○ 同 北八日 義 仲 よ 伊 豫 の 国 と ま の へ た る ひ よ 任

し 朝 日 将 軍 の 号 を ゆ ち ち ○ 月 北日 高 倉 院 崩 御 ち ち ○ 九 月

る 成 親 と ち ぬ よ つ き ま れ と ほ る 日 院 と ち ○ 九 月

平 家 福 原 ち る ま よ ち ち く 伊 吹 の 重 能 と ま き の 五

清 盛 を 築 く た づ く 平 家 と そ ち 重 盛 の 三 男 清 経 は 先

義 の 柳 浦 よ て 入 ま し て 死 を ○ 十 一 月 義 仲 知 よ ち 伊

見 て 悪 逆 を ち ち 法 皇 と 五 條 の 仲 所 よ ち し こ め 拾 改 基

通 次 下 四 十 九 人 の 官 爵 を け づ り 天 皇 の 先 を 月 ま ま

丹 の 出 使 多 慶 等 牧 百 人 と ち ち

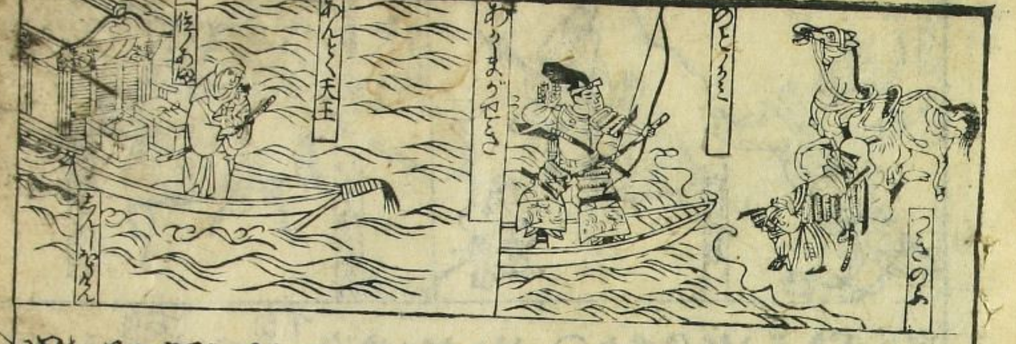
元暦元 甲辰年

八十代 後鳥羽院

諱 は る 成 と の る 義 院

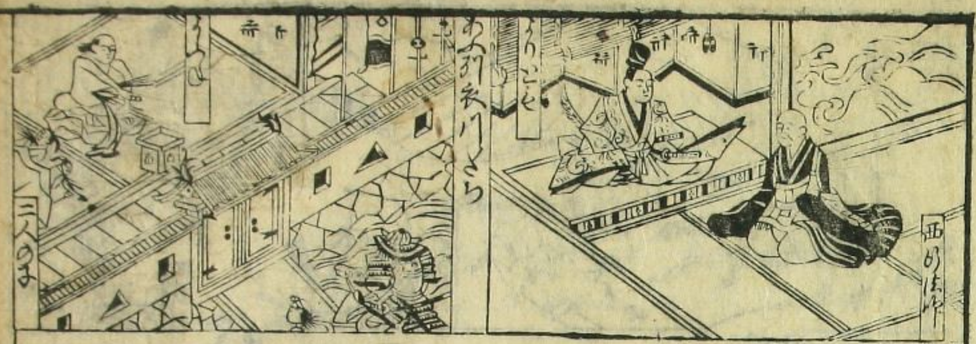
牧 四 の 皇 子 あ り 母 は ち

つの強ばりら七條院し号を修復し太夫信隆入ひ
そめ寿永二年安徳天皇西海へおもむくよりて法皇入こうへ幸し
彼のくよ遷幸し
(后) 陽禄門院 (故)
(即) 八幡の姫
(新) 建礼門院三度度年まで四百七十八年よりろ
八百十六年家の春の浮世十一年過
二月平伊征夷将軍よ任ぜ宋ぶし宇治川渡よたく
らいけく栗津ゞ原よてゞし矢まあら紀を今井
兼平を忠ゞ○同月平泉堀を攻ら一ノ谷より
○二月范頼一ノ谷の大手生田森よひひ梶原二度
ハッけとそげし義経搦めの三草山よひひ熊谷平山
土肥先陣をそげし義経駆ら平家ノ陣
とゞく平家敗軍して通盛忠度経正敦盛ら紀



室湊いけ〻る○十一月頼朝義経義経を〻くら軍
御堂し兵を義経追ら〻ゆゝり
二月深草屋敷ハ合戦法蓮信綱田光敗ら〻○
三月北山ハ義経平家を攻ら〻ハ平家敗
軍を二位禅尼神璽宝物をもって安徳天皇を
いざ死海よこげし天皇より紀を六ゝの神璽宝物を
奪ゆ入り寶物ハいまゞらうまゝ紀平家の一
ゞく〻れ海よこげ〻
みをいけとり義経よ
つて義経よ〻〻〻
文ゞ〻ゞ○源頼義よ近ゞ〻義朝よて〻
頼朝土佐房昌俊上して義経を〻〻〻重衡を〻〻○十二月
義経昌俊を〻〻○文覚〻〻〻〻惟盛嫡
男六代いおゝ命を〻〻○頼朝六十六ケ国ハ〻〻追補

使よ補ひて出陣す後ごさて庄園を地頭をおくこと
出ちの天下武家の政ひはじまる
丙午二年　五月除目行家といづとの合戦○九月
西下法師ちとせ特免して和歌ちうしゆうとうう
丁未三年　二月ちうしゆうひそうに奥州よりひさて秀
衡ひ鎮よりくるる○四月栄西宋ようりく○同月法皇
牧宇東大寺の大仏を再興せ僧重源をして造ら
桂木をとりとめ○五月ちとせ宋流の門裏をつくろ
○十月陸奥寺秀衡卒せ○後千載集を撰ぜ○明
菴まで宋よりて　戊申四年　二月奥羽ちう
林わげ　己酉五年　四月秀衡ようけ○ことせむ
宋渡奥ち衣河の鎧よて ちうの時よりー三十一秀衡ごこ二
男れ泰衡三郎出羽ち死○八月和田義盛泰衡ら宋
国侯ちを ちうせ九月泰衡家来河田次郎ちうう



庚戌　建久元　二月ちうごこ
任ずを女御とせ○十月東大寺
田出宋を渡せ
八月ちうぐう崇上頼朝ちうう○四月栄西宋ちう
造めく禅宗とひろひ○十月法皇の仏不法位ちう
くる○僧大寺を府宣旨で五十三　壬子三年
正月年号ちうう上徳五郎兵衛ちうう○三月後白
河法皇崩ぜ壽六十七さい○七月ちうこと征夷大将軍
に任ぜ○八月ちうこと次男実朝ちう　癸丑四年
四月ちうこと次郎ちう特せ○五月ちうう盛澤ちう
し富士野ちうこと特せとりよりて伊津祐泰ちう子宵戒祐
成時宋を出ち場ちうこと上総介ちう
川○七月わらの太ちうう兄ちうこと奥州ちうこと
ちうちうう○八月ちうこと秀の範頼ちう伊豆の

みなごろして寺を○六角堂えんしゅう　甲寅五年
六月十三日六角堂上棟○九月廿二日興福寺造営く番
う○勅して栄西より禄をたまわりひろうと上棟ぞ
乙卯六年　二月より東大寺をゆいかんの堂
をつくりはじめ　諸家をぐして上らく○三月十二日東大
寺くやう帝ゆきあり　一万石黄金千疋米一万石黄金千疋
行千疋を施入せ○同月中山右府出家せ○源の
ちかを為仁親王ひいきをしたてまつる御門院
二月廿三日さが清涼寺の釈迦堂を修造せ○四月
三條左府実房卒髪　丁巳八年　閏六月廿五日
大風暴雨○ものとと信濃の出家光寿よさんけい
戊午九年　六月後鳥羽院ゆばりす○二月十四日西の法師寂せ○三月三日
為仁ちんのうの重子　親

二月廿三日○十月京都の寺濃州
京能保卒せ　五十三○十二月相模の稲毛三郎重
成亡妻八重ゆきとこの川の橋をくるる私その橋く
やうにゆきとうるをくるる私ゆきとうるを宿よりくるる法師よりくるる法師よりくるる法師
天皇の御夢武蔵行家の怨霊現して私ゆきとうるを
ゆきとうるをいとり死ぬ

己酉元
己未年

八十長

土御門院

鎌倉の為仁ちんのうの御門院
ゆきとうるを　御門院より母の源ゆきとうるを
ゆきとうるを　義門院と申せし門院通親の養子の法
性寺の殿の娘　ゆきとうるを
(丙)　陽明頼實　太政大臣　藤原良経　左大臣　藤原家實　右大臣
(即)　人皇の始まりより八百九十一年　家の年号の慶元五年に当
(閏)　元禄三年　庚午まで四百六十三年まわり
四月十三日右大臣源朝臣記せ　寿五十二さい　治世二十

年月北六月頼朝卿家督をつぐ小條時政執權○
宮内卿僧の文覺ひんぎをしかんあるとれて強改の恩をもちて
○平惟盛ゴケ六代禪師ちうち○五月泉涌寺の冠
山浦兵衛家まかもひく○十月の頃ちうの侍所建れして
梶原ゴはとをうちの相川一の文をかくる
○十一月頼朝公能員の宅まて鞭とりうしなわるべく鞭
をとりうて　庚申二年　正月梶原の家時ちうがしかまま
て生長の郎士をとろう○二月の頃ちうの壽福寺をとん
ずうて家西宗山ちう○七月花山院左府家雅卿をこと
五十三さい　辛酉建仁元年　正月蝶長成が嫡資盛卿
坂の合坂の蝶をとりうたく木盛強めゆう○七月頼家
百日の鞠をとりうて次○十二月坂の合の上皇和歌所と
を通具有家定家家隆雅經新古今集をあらう
壬戌二年　六月家西建仁寺をうんをしり禪家をとへうし

○七月頼家征夷大將軍に任ぜ○十月久我内府通親卿
薨ぜうう五十四○十月十五月分兩山ちう
八月頼家やまいあり宣旨家督をつぐ○十月頼家と仲
宣の修禪寺まうぐ次　癸亥二年
天王寺まうぐ○七月修宣の修禪寺にて頼家と寵
ぜ二ー北三乙丑二年　正月ちうど祝○三月義
門大名ゴ衆の人家西禪家とへうし家ありうし○
六月畠山重忠重保父子誅ちう○十二月新家の長
哉とまうが長の為の為の咲の弟よりして咲と考ぜ
元久元　二月くに南部　○八月ちうの
大名大あの考家とうん　甲子建永元　二月源士家の
祖法然をとうんをしり　乙丑二月源士家の
家農ぜうう六十一月　○四月九條家実日ちう
小流ちう大いでく七條まうぐ　○閏五月北五月條陽塩
戊辰二年

正月寂仙寺の八ちうん延自和尚殿ゑ○二月実利院殿
○九月熊谷入道蓮生出家して法然
法勝寺の九重の塔ゑんと庚午四年　九月の紀望
ひごにあるろ山さき三尺余○十一月北五月土御門院
ろうぬ上寺成ちん寺成ちんきたゆづりの十二月新月郎位

建暦元辛未年

八十四

順徳院

諱は守成ろ後ろ鳥羽院第三の皇子なり母は藤原
ろの重子とゆ仕門院と号ゑ購左府範季の
ひとつのり左位十一年
丙　藤原家実宮百　藤原良輔　左大臣　藤原公継　右大臣
即　人皇の始ろ小百四十三年　来摩京八嘉定四年
前元徳三年庚午　四百三十一年よりろ
二月泉涌寺八宛山後病来ろ山して法あて律宗
ゑへひ○法然上人ゆるされて旧京ゑ帰院をうんと

して大谷寺と号ゑ　壬申二年　正月九五月法
然上人寂ゑ○四月ねことを大慈寺とはろ○大賞会
かと和ろ○陳ろ成仁ちんとうをひとしをば
堀河院と以奏聞　建保元正月初月庚ろ大地しん
○二月泉小次郎ひちん○三月和田ろ八せん和田ろ一ぞ
とくをろ八ぶ和夫名来秀ハからはをとめぐをられぞ○
八月清水寺と清水寺ろ宰相　甲戌二年
泉西庚ろ八壽福寺をうんとう○四月えい山ろ元光
三井寺をて実利造替　乙亥三年　正月小條す改
伊豆ろ八ろ山ゑ病死ゑ○七十八さい○六月建仁寺
ろ八宛山泉西寂ゑ○八月九月庚ろ教長九ん
丙子四年　三月ろ八ねことの男坊門院信清薨ゑ
○泉ろ八陳和卿さうして実利より得ゑ○八月九日
大色堂食ちんゑ○十一月ねことを波唐ろで

三わつく陸奥郡より大船をはらひ出かすくして
うつぶしたぬよ柄そんず　下丑五年　六月頼家の
子二暁を法つぐ長のおんとす○九月四日の夜大ぶ
戊寅六年　えねとと太府より任ぜ　己卯　承久元
正月九日えねこと寿が長まてあ尚公暁まころう
元ま年二十八頼朝頼家実朝うしと三代ね年とこ
○六月左府道家の三男頼経とのゆくつのね年とす
元ま二歳○七月大門のうごと頼家ほるる時の流の
ちく助とうりり仁義ぶ成ましせいり史ととこのてぶ
びそ　庚辰二年　二月北六日清水ちるえん上○
紙意ろゆうろえん上○七月大雨洪水○十二月の雨
ろう大りぜ北ーん史史　辛巳三年　二月十六日日
蓮上人わいろ出よひまう○三月ふぢつの雅経卒ち
○四月順徳院ろうぬと太ま懐成うんゆづりの人

大内物ノ圖

○五月ほるる月院はひかんりてほるる時院とおき
ろ必土御門院ととさし出順徳院とりどろ出よう
つ年りろ義院の孫仁ろとと位ま即ひ
○こに泰時ろ京時ろ京とかいく赤六波羅とつた

貞應
壬午

(仁義)

後堀河院

譚い成仁ろ会の
院ろ孫寺貞親卒位
みあり母ハ家つの孫ふ白河院と号ち中
ろぐん基家つひとめろり五位十一年
(臣) 近衛家実　太政大臣　摂政　摂家通　左大臣　摂大臣　左大臣
(即) 人皇の始ろ文八百六十年　来の甲子嘉応十五年ぶろ
(嘉) 元禄三年　庚午まで四百廿九年ま
正月帝ぶ位ぐ○二月平時大臣物と兵めま
癸未二年　二月三條三房ひとめ有ふと中天ま○
五月寺貞元ろう前ぞほる会太院と僧ま又持明院と

称せ○平泉寺の宛山道元来り入○ゆゑ元に二子
とうしゆゑ　甲申　元仁　元二月くらいの船ふちごまか
ぐしきう○五月くうたりうくに大魚ゆへ[illegible]て
死せ○六月十三日小條泰時病死せ　乙酉　嘉禄　元
六月大江廣元入道元仰卒せ○七月二位禪尼改子
農せ元祐軍しふ○九月慈鎮僧山転せ○十一月
ゆゑくうに北条ぐんぐ　丙戌二年　正月北条
泰大祐軍に補せ○親鸞上人ゑとつけの芳賀の新
よて京田とうんでもうして専修寺と号し下京安貞元
正月徳大寺の左府に従慶せ○二月冥白家冥乃
ひそめ出ゑ子を中宮ゑ子○三月八月後堀河殺せ○
出良の西方寺とうんでもうせ　戊子二年
洛中洪水　己丑　寛喜　元四月中宮出ようねとそ
て道出乃ひそめ導みを中宮ゑ子○十一月九七月

若狭津の定えんしつう　庚寅二年　六月小條時氏
病死○四月九日雷ゆゑくゆゑ大雨乃○七月十六日霜
ふりて冬乃ごし○十月十六日あ[illegible]ふりて雨乃と
○十二月北条泰時病死せ家乃ひそめ竹井所とれ意
ゑ子○四月松殿基房薨せ　辛卯三年
四月北条乃久乃水るゆゑくゆゑ人伊豆乃ゆまわつより
翌日ゆゑ北条泰時死せ○六月ようゆゑくに大風○十月上洛
ゆゑ仁　壬辰　貞永　元
[illegible]ゆゑ北条七さい○ゆゑ乃の端ゑ秀仁
正月ゆる雉乃叫東上人殺せ○六月定家新勅撰集と
えらぶ○七月小條泰時式目五十條とさだし○閏月
ゆゑくに和歌乃に乃の鳴とゆゑ○十一月法然創
謹ゆゑ元祐○閏月伊勢堀河乃使くゆゑ秀
仁ちんくうにゆゑばりゆゑ

天くの天のまに未不不の三年と

癸巳 天福

八歳

四條院

諱は秀仁とぞ申す堀河院の太子なり母は藤原の道子

とぞ号せお関白道家の心ぞあり

巨蟹 藤原教定 大政左大臣 摂政 藤原経任 左大臣 西園寺実氏 太政大臣

即位 ○望の如くなり文治元年より建久六年に成る

閏 元禄三年庚午まで四百四十二年なり

五月近衛基通薨ぜ〻〻七十四 賢寿と号せ○

九月藤壁門院 後鳥羽 甲午 文暦 元 五月九條院 閏

ぞ寿十七さい○八月ばかり河内閏ぞ寿九三さい

○南都の子四わらべ家ごとに来来不の三字と一

所のまに書き世は天狗の云ひざまと云乙未 嘉禎 元

三月摂政教定薨せ○四月園爾寺入さく無集に

あらく法とぞ○十二月南都の瓦焼集東大仏興と

丁酉三年 丙申二年 十月南都の瓦焼かうさに

四月家隆卒 戊戌 暦仁 元 正月初軍牧

徒上洛十月還御○十月松殿師家薨 己亥 延応 元

二月九二月ばかり白河法皇かよわく出少して閏ぞ寿六十さい

○五月東大寺の大仏の眼ぞ出ぬ〻〻庚子

十一月小條時房卒せ 辛丑二年 八月九月疫病

定家卒せ○秀雨来ぞ閏ぞ 壬寅三年

正月九月四條院閏ぞ寿十二さい泉涌寺に葬る○

月九月邦仁ぞ〻〻元 癸卯 寛元

閏ぞ寿三月六月位ぞ〻〻○六月西

園寺実氏の心その姉 ○月小條泰時

卒せ○九月北条さだ〻〻閏ぞ寿四十六さい

○十二月さだの冥日宗薨せ○秀雨東天寺に〻〻

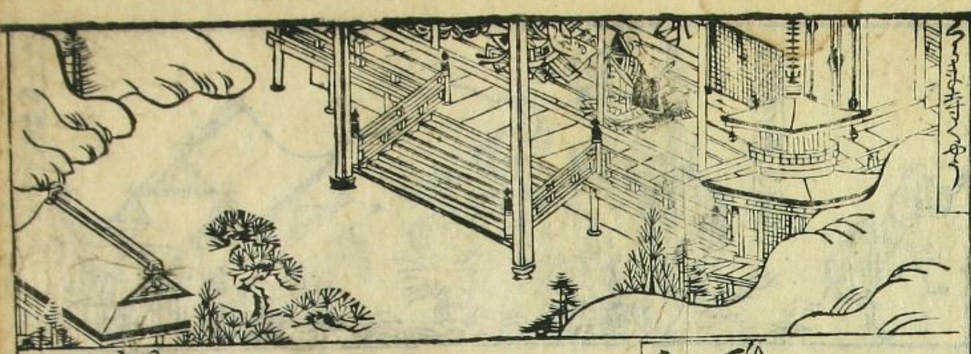
八十七

後深草院

諱は邦仁とぞ〻〻土御門院

二〻皇とぞ〻〻母は源通

みしいつ土御門通京のひとめより五位位四年
㊐ 後京兄經 大納言 左大臣 西園寺 太政大臣
㊊ 人皇の始りよ 皇子 宋の陸奥の浮船 高
㊋ 元祿三年 庚午 まで四百十二年より
六月中 天姫より久仁ゑうとうこれを後深草
院といつ○光明峯寺道家 東福寺をこんりうし
國兩上 定山 上 國兩ハ聖一國師 甲辰二年
春の頃より天變ふびくあり 正月 ねの軍 北條 ゆ
ゆつ 元 上 北條 ハ北條 ハ北條 ○八月 西園寺の
上 經 義 ぞ 乙巳三年 正月 客星 南 あり
三月 てんぐ 經 義 あり ○小條 北時 次 ん
和時 義 ぞ ○七月 頼經 ぐ ら と 家 し ま ○ 月 月 頼
嗣 小條 經 時 ぐ い ま と ひ ぐ 姫 を ひ ぐ ぶ と す 丙午四年
正月 ぼ さ ぐ ハ 院 ら ね と 久 仁 ゑ ん 五 よ ゆ づ り 月 即

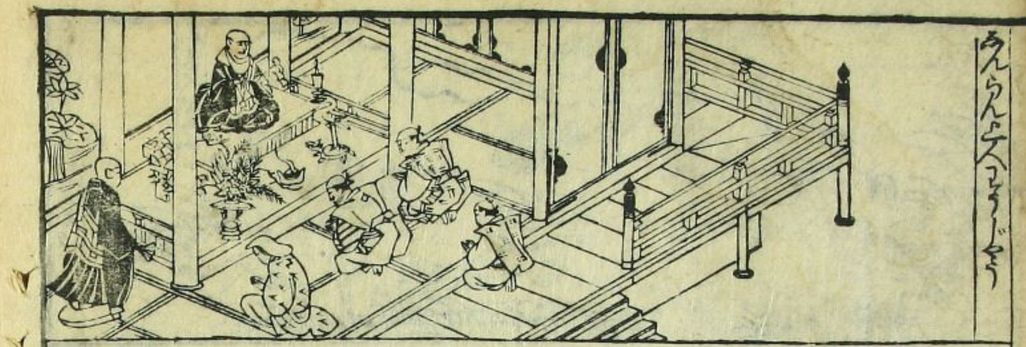


位○七月 ねの軍 頼經 ぐ ら も 京 ハ ま ん ○ 京 漢
本 ね ち の ち に 大 光 禪 師 と 号 て 建 长 寺 の 宛 山 ま り
○ 後 ら ハ 道 家 ぞ 聲 ハ 寺 を さ ひ ら
丁未 寶治 八十代 後深草院
を 号 そ ぼ さ ぐ の 院 宋 二 ハ 生 ま り 母 ハ 後 ら の 姫 よ
こ り ハ 大 光 院 と 号 て 西 園 寺 実 氏 の ひ と め ま り 立
位十三年
㊐ 西園寺 実氏 太政大臣 後京 實經 左大臣 後京 兼平 右大臣
㊊ 人皇の始りよ 皇子 宋の陸奥の浮船七年 ま ら
㊋ 元祿三年 庚午 まで 三百十四年 ま ら
六月 ぬ ら よ 雪 ら の 十一月 九六月 院 立 上 人 歌 て
戊申二年 ○十月 二月 通 光 慶 て ○十月 二月 基 元 慶 立 院
え ん ゑ う ○ ら ら ら 己酉 建長 元 二月 閑 院 ハ

譜ハ久仁ゑう富小路院
し 号 て 又 常 盤 井 院 と

だいり焼上民屋焼くこと三月洛中ことごとくやく○四月十六日ひさらのみよ葬うの日北日ともに大雨○大元恒仁王の宣旨
して祈りくるうの一壇秘○大元恒仁王の宣旨
をうけたまはれと命じ庚戌二年　法貴の法壇
辛亥三年　続後拾集とえらぶ○七月閑院のおとど
造営なり　壬子四年　二月光明峯寺道兄死
○四月上皇の一の院宗尊親王をうちたてまつり
て伝夷大将軍とす　あね軍北条相模守より○八月
十八日和歌の社のうち造り上はじめてしいづ
こうるさ五丈ばかり　楫の木のことごとくよりて癸丑五年
八月九日あらぜんの平泉寺の冠山道元禅師
を費河宋のことばめとす○十一月小條時頼
をんなりて宋の僧蘭渓を冠山に
十一月九二月足利たる次義氏薨ぬ○法燈禅師

きこう　乙卯七年　聖一国師東福寺の造営
丙辰　康元　元　六月十四日八まん宮の動○八月おね軍
頼経薨ぬ○十月おね軍北条相模薨ぬ○十一月小條時
宗剃髪して寂阿の寺道崇と号す　丁巳　正嘉　元
二月三日北条人○四月九日壬生の地蔵堂やく○七月
飛鳥門院崩ぬ　寿八十七　戊午二年　八月朔日大風
月二日洪水人かく死ぬ　己未　正元　元　春きさいい
きん人かく死ぬ　小き死わりて死へとうこう月とへ
てめぐまとうぐ○十一月ばかり草の花ちるぬ
牛恒仁ちんとうに　文應　庚申　八十九　恵山院
譚八恒仁とう　禅林寺院と
号ぬ　ほとがのかの寺の
みほとり草の花ちる　母の光りなり　辛酉　伝十五年
壬戌　摩訶般若　太政大臣　菊原宗雄左大臣　近衛基平　大臣



えんらんしんこうじ

即 人皇の始り 神武皇より数の理数の景定えらびわち

闕 元徐三年 庚午 まで三百八十六年 [illegible]

七月日蓮ゑらにてなりしき時れよあへく法[illegible]

ひろし○宋の元徳 [illegible] 辛酉 [弘長] 元 十一月小條重

時卒 [illegible] 拾乗寺と号 壬戌二年 十一月九八日

一説に八月 [illegible] 上人 [illegible] 癸亥三年

八月十四日大色○十一月九二月小條時[illegible]卒 [illegible]

と号 甲子 [文永] 元 ひさ星わろ○二月延

暦寺 [illegible] ○五月えい山ちう三井 [illegible] ○南

都禁中 [illegible] 神木入洛○八月小條長 [illegible]

卒 [illegible] ○最勝寺 [illegible] 修 乙丑二年 三月十一日 [illegible]

さたの [illegible] ○四月九三日伏見院 [illegible] ○讃

岐今集 [illegible] 丙寅三年 二月二日 [illegible] ○四月 [illegible]

五院造 [illegible] ○ [illegible] 惟康 [illegible] 軍 [illegible]

[illegible]

[illegible] 三さん 丁卯四年 十月西園寺 [illegible] ○宋

の [illegible] 知 [illegible] 建長寺 [illegible] 大 [illegible] 卯の号

と [illegible] ○禅僧 [illegible] 宋 [illegible] ○姑 [illegible] 世 [illegible]

[illegible] ○十月 [illegible] 戊辰五年 五月八日 [illegible]

だら牒状 [illegible] 文章 [illegible] 蒙

己巳六年 二月十一日 [illegible] 返簡 [illegible]

[illegible] 宋の [illegible] ○六月 西

[illegible] 小條時 [illegible] 卒 ○十一月二條良 [illegible] 庚午七年

[illegible] 辛未八年 十一月十三日 [illegible] 福光園

壬申九年 二月十七日 [illegible] 十三 [illegible]

癸酉十年 如輪上人 千本 [illegible] 仏 [illegible] ○ [illegible]

[illegible] 雄 [illegible] 甲戌十一年 正月 [illegible] 世 [illegible]

んこうにゆづる三月十六日 [illegible] ○西 [illegible] 寺 [illegible] 大

乃ち人々ちりぢりに成

建治元年

後宇多院の代

建治元年　大政大臣二條師忠　九條忠教　左大臣

弘安元年　蒙古の使ひ来る　大政大臣二條師忠　九條忠教　左大臣

母は後嵯峨の御女　従二位十三年

惟のしもつかの上位十三年

弘安三年　丙子　五月光山法皇崩

雅藤卒　○八月蒙古の使ひ来る　捕へて斬る

十一月十八日さが法輪寺くわつ

七月北方長福寺雷火　戊寅

元　蜀の南溪殺

乃ち大元帥の号を

賜る　○さがの大覚寺

福寺の兎山圓爾寂す

辛丑四年　蒙古の軍兵十万人

日本を攻ひ八月朔日

やぶれる　○軍兵三万人を八角嶋にて殊す　○十二月十

三日南禅寺の兎山普門寂す　大明の出師と倭寇

壬午五年　十月十二月は蓮寂す　○條時宗光

寺をたてゝ　○禅師を開山とす　癸未六年

山門三井と天王寺の分寺とあらそふ　甲申七年

四月は小條時宗入乃道果卒す　宋亡る　○

七月一條実経卒す　乙酉八年　十一月秋田城

仏光禅師来　己卯二年

十月十六日東

庚辰三年

の兵船六万艘にて

発未六年

の分寺とあらそふ

甲申七年

宋亡る　○

乃道果卒す　宋亡るゝ　○

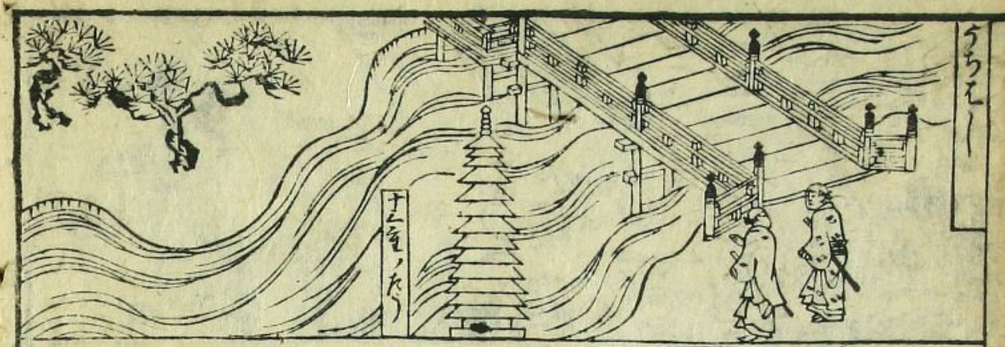
十一月秋田城

乙酉八年

仏巻盛又よりさやくしんよりて殊せる　○源基氏邦治親

ふたゝび二條院にうつる

丙戌九年

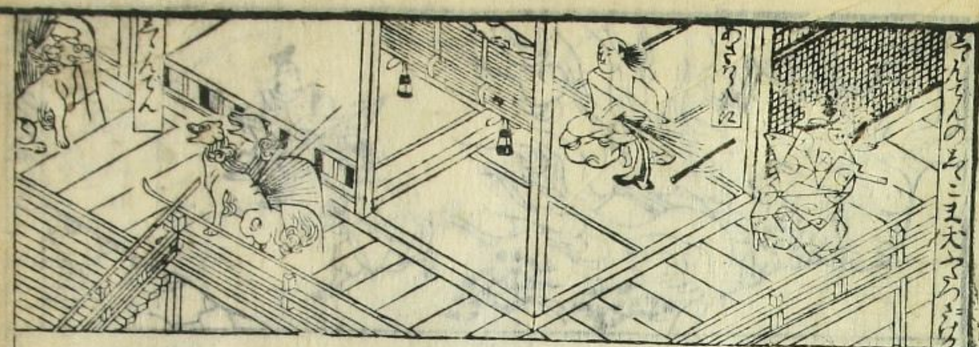


寺院建立の所也 ○ 清水の開山佛光禄所 叡也 ○ 清水の舞台の南つらよ
保代停山のうへ十三重えるさ五丈の石塔をたてゝ
丁寅 十年 十月北一月ほうどの流位を無仁親王ゆづる
譲 ハ無仁とゝ ハ保草院宮
二ノ宮みのり母ハ為ての情
みとゝ玄輝門院と号 ○ 山陽左太臣 実雄 ひとし

正嘉代 みね

九十 伏見院

○ 巨 源基具 大政大臣 九條忠教 左大臣 近衛家基 右大臣
即 人皇の始 ○ 九百九十 ○ その世紀の至元九五年に滅
渭 元禄二年 庚午 まで 三百七十四年 ○ 高
二月三日 後 ○ 流仁親王 ○ 高 ○ 高
伏見院 ○ 己丑二年 九月 ○ 軍惟康 ○ 流
蠣 后 ○ 十月 久明 ○ 伏夷大 ○ 軍に任じ ○ 高
に下向 ○ 時宗の一遍上人 叡也 庚寅三年



三月四日 大震殿の柳 ○ 相 大中 ○ 高 ○ 高
九月の夜 ○ 清水八幡 ○ 九月 ○ 山八幡
高 ○ 奥ふかう ○ 叡也 辛卯四年
二月尾 ○ わつさう ○ 月ほうくさの上皇
高 ○ 高 ○ 高寺の開山 ○ 叡也 ○
四月十七月 ○ 塔 ○ 上 壬辰五年
四月 ○ 大地 ○ 高 ○ 八月
つき ○ 十二月一條家 ○ 光明峯也 ○ 高
と号也 癸巳 ○ 十二月 ○ 高
会 ○ 号也 ○ 天皇寺の石 ○ 高
さ丈 甲午二年 八月 ○ 月 ○ 高 ○ 高
十五月 ○ 金堂 ○ 上 ○ 四月 ○ 十二月
基 ○ 清水寺 ○ 十一月 ○ 高 ○ 高
世ひ ○ 高 ○ 高

東仁親王

五月廿六日の夕方に仁和寺より出火して紫野
焼し又○上野入くふ出来るの所山白雲恵光
寂光　寛元六年

○七月伏見焼るなり仁和寺より門
をくぬ○八月法性寺殿の宝塔に
雷鳴しんじゃう

正安元
己亥年

九十二

後伏見院

諱は熙仁とも稱す入道後
入道は行覚と号す
伏見焼の太子なり母は義時の娘なり永福
門院中宮なり　太政大臣　正応二年

(辰) 二條兼基　太政大臣　左右の院おなじ

(卯) 人皇の始より九百卅四代の成業は文徳三年に南
京一山寺にて南禅寺に位ありし

八幡宮

乾元元
壬寅年

九十三

後二條院

諱は邦治とも後宇
多院第一の皇子
母は西華門院と号す久敬門府
支院第一の皇子

慶安二年　辛卯三年　正月廿一日なくぬを邦治親王
立ゆづり皇子○三月廿四日をくぬ○八月伏見の上
皇の皇子富仁なりと東宮なり

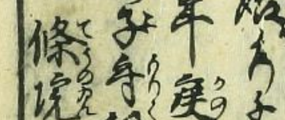
(辰) 一條実家　太政大臣　左右の院おなじ

(卯) 人皇の始より九百卅五代の成業は文徳六年にわたる

(酉) 元徳二年　慶安二年より三百八十三年なり

九月貞時病悩重者なり

発行 嘉元元　新法撰集をえらばる○是は律師叡尊
早良二年　七月十六日法皇崩御寿六
十二歳○十二月一條内府内宣嘉元　乙巳二年

九月十五日、鳥羽山の御堂前に壽五十七さい○七月
東大寺の相論ありて○三月利生の氏ひまつる
丙午 嫡治元 仁和元年 七月母遊義門院崩
後白河上皇崩御 利真長生
延慶元 戊申年 九十四


諱は尼仁とり又萩の殿と号す 法名慈才二の皇
母 親鸞門院と号した
みなり母へ後鳥羽の厚みとり又顯親門院と号した
四 寿永元年 木曾義仲 持明
即 人皇の版ゆ九百四年 元武家の至文元まわり
四 元祿三年 庚午 三百四十三年ゆ
七月久門のみ寺邦親王とゆ崩ゆ入る年○八月
北五月後二條院崩ゆ壽九四さい尼仁とう位

に入る年○九月後宇多の法皇の望みゆる後伏見天
皇 ○行能出家法名を覚法
己酉二年
実成三年 辛亥 建武元 大炊御門信房崩ゆ○八
月西園寺入道前太政大臣 林髮して林院と号す○
十月北六月小條員時卒ゆ 壬子 正和元 六月小條宗宣
卒ゆ○玉葉集を奏ゆ○圓乘を配一出所を奏
癸丑二年 七月崩ゆ関白基忠崩ゆ○十月後
上皇崩御 平寅二年 乙卯四年 七月小條無
時卒ゆ○三月後宇多上皇崩ゆ○馬琴配流
丙辰五年 丁巳 文保元 九月三月後宇多法皇崩ゆ壽
五十三さい○寧一山殺ゆ戊午二年 二月北六月崩
宗峻入道と号ゆ法名を壽
○三月後二條院の望みゆ邦良親王と東宮とす
○六月延慶元年崩ゆ

元亨元　己未年

九十五

後醍醐天皇

諱は尊治親王又は尊雲と号す後宇多の第二子母は藤原忠継の女なり花山院師信の養子となり嘉元三年十三年　前の宮姫宮を九百六十一度元仁年の延応六年に為れ

丙　寅　東京通雄　太政大臣従三位藤原実兼　庚申二年

續古今集を撰ぶ　○仏燈国師歿す　庚申二年

七月九條師教歿す　○三井寺実上　平西　元亨元

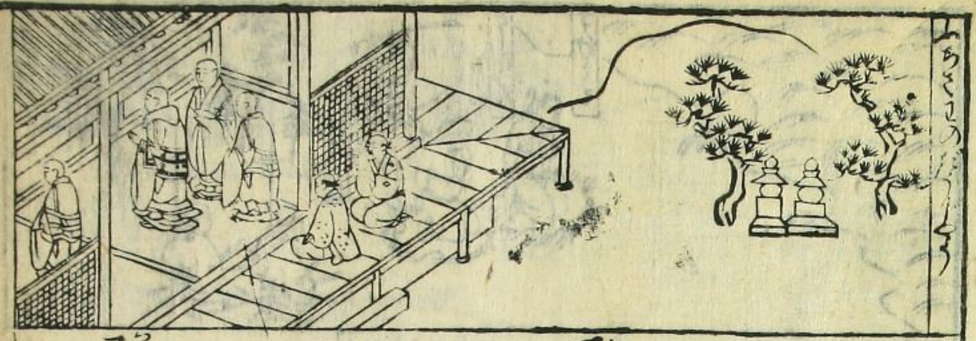
四月法皇大覚寺に金堂を造営す　○元の後醍

醐寺の虎関元亨釈書を著す　○九月西園寺

実兼歿す　癸亥三年　甲子　正中元　五月近衛家

平歿す　○六月後宇多の法皇崩す　壽五十八なり○

十一月北条貞時出家す　○後深



の方場をしめて云々　乙丑二年　五月日野資

朝卿　○後醍醐院崩御　○後深

後醍醐院崩御　○八月疎石南禅寺の住持となる　○

續後拾遺集を撰ぶ　○十月おなじく軍惟康歿す

○十二月一條内經歿す　○陀羅尼法を修す

丙寅　嘉暦元　三月東夷外良歿す　○十月小條宗時

才歿して紫微仁王寺に葬る　○七月後醍醐上皇崩ず

沈元ちきろう建長寺の住持となる　○三月九條房

実歿す　○十月小條維貞卒す　戊辰三年

十月十四日おなじく軍久明親王歿す　○十二月宗

尊法親王の元亨釋書を著す　○六月山門の大塔建立

己巳　元徳元　二月山門の大講堂なり　○六月三條実

重歿す　○十二月久我和忠通雅歿す　庚午二年

[illegible]資[illegible]後[illegible]ハ[illegible]よて[illegible]せらる○七月日[illegible]ハ後[illegible]
[illegible]ら[illegible]よてこうこう
[illegible]ん[illegible]よて紀州千里の[illegible]田陸くろう○同七月九ー[illegible]首土
[illegible]くばくくし数百丈○捕正成赤坂ハ城のうへ登
[illegible]ハ[illegible]山よりてこうもの○十月墨仁ちんしうをく位

正慶元 壬申年

九十八

辛未 元弘元 七月二日九ー

光嚴院

諱ハ量仁ちんの後伏見院中一ハ皇子
母ハ廣義門院と号す西園寺ハ左府公衡ハむす
めなり主位二年

丙 今出川 無象 太政大臣

即 人皇八十九代元弘帝家の至順三年に為

前 元徳三年 庚午まで三百九十年まろ

三月先帝を隠岐へくふ一の宮と土佐のくに幽法院
ときなさへ出ようつー[illegible]大塔宮ハ遠国ー[illegible]て護良し

[illegible]
[illegible]一丈六尺

癸酉二年 四月九日[illegible]尾谷ハ豊峯の
豊二号元兵火○五月七日号る氏入洛○同九二日ハ
條号る時東湯寺にくだりハ○六月先帝入洛しふ
くび位よりまく○護良ちんしう征夷大将軍に任そ
重祈ハ禮よりよ

建武元 甲戌年

後醍帝重祈

正月大内裏造営ちんし先○七月怪名ちん殿の上
をあるちう羽一丈六尺貫有射かとす 乙亥二年
二月いばをの山ちう統るとさくぐ○三月義帝うん
せい○七月直義護良ちんしうとうそ 丙子 延元元
四月後伏見院崩ぬ寿四十九さい○五月捕正成こな
ニ川よてうちぬ○八月号る氏ハとうしんよて光嚴院の
かと豊仁ちんしうを位よたりひ○十月新田義貞
ちぜんの金湯よてこうる氏とうせん○十二

月ぼうご帝和と云うびいで〻表師よりゆさ楠公
行う地の皇辰と云ごもうれと南朝ちふ

建武四丁丑年

九十七

光明院

諱は豊仁とのふ後伏見院
第四の皇子光厳院の弟

○二年

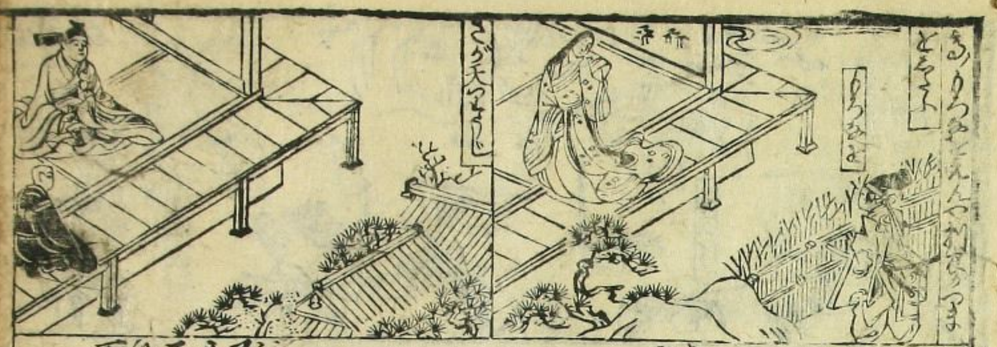
正 家系基嗣
即 人皇の始ちふ元百六十五代元順宗に至て三年にわたる
前 元禄三年一庚午まで三百十一年よりの

○三月二の文学良ちんちうあらび

戊寅 暦應 元 正月濃州青

南朝 延元三年

に新田義顕ぶぐへ
野ゞ原ちうせん○同七月二日新田義貞ぶれ矢なわさい
て卒す○八月足氏征夷大将軍に任ず○同十六日ぼ
ぶどの帝表弟より新で壽五十一さ十月三日義良
ちんちう位よつきのふ小島親房南帝を輔佐す



己卯 南朝 二年

後村上院

諱は義良とのふ後ごう帝
第七の皇子母は准后

廉子とのふ妄野中将公廉のひすめ参り立位建武年

南朝 興国 元年 ○八月ぐ安国寺をうり

庚辰 三年 三月塩冶判官貞師直ら滅ぼされて
殊ちうる師直亡ぶる貞の妻をちうふりて○五月武
帝病死○ぶる氏亜ぶ天龍寺をうんもし 疎石と用
山ちす疎石い愛宗国師ぶ辛巳四年 ○月二條前
実白師公薨 壬午 康永 元 天変地妖疫ちう○法
隆寺の塔えんしうう○十二月ぶる氏の母ぶ貞清ち卒

癸未 二年

高師亜ぶ切寺を草創す 甲申 三年

乙酉 貞和 元

八月九日天龍寺くやうぶる氏うんけい

丙戌 二年

南朝 正平 元年

○七月北四月東福寺
の虎関寂す○風雅集を奏す 丁亥 三年

周信貞和集をわし　戊子四年　十月光明院
位を帥姪真仁ちんのうにゆづる同月即位花園法
皇の皇子直仁ちんのうを東宮ようしの○十一月十一
日花園法皇崩ぜ壽九二さい　嵯峨院と号せ

巳丑五年

九十代　崇光院

諱は真仁とゆう光厳院第一の皇子なり母は従東
秀ようゆうの女陽禄門院と号せ三條大ごんと秀つゆ
ひとめなり　在位三年ゆ　位を
辰　前弱よ同じ
即　人皇の故ちよ九百七十六えの年ゆ　至正九年ゆう
元　元禄三年　庚午まで二百九十三年よなり
正月五日楠正行と云帥率し四条縄手にくるしん
正行ゆ　ゆれ矢よわらて死せ弟の正時もうち死○十二
月直義和製恵源と号せ　庚寅　観應　元四月八日吉田

の長好法帥寂せ年六十八○十二月直義うち
うちうんて　辛卯二年　北軍塚ゆう○二月帥直師
泰師父く洪ゆふ○七月直義ゆう氏滝塚山ゆうせん
○直義ゆう病ちく　○天竺ちの用山珠衣寂せ

文和元　壬辰年

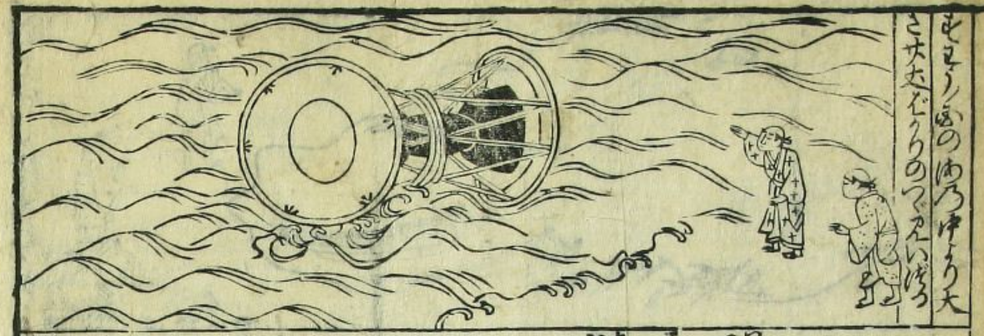
九十九　後光厳院

諱は彌仁とゆう光厳
院第二の皇子なり
崇光院母の弟なり崇光院より師よ遷幸りよ
ゆ　ゆれて義詮ゆう　ゆうんて　観応三年ゆ位よつき
ゆ　在位七年
辰　九條經教　関白
即　人皇の故ちよ九百八十七えの年ゆ　至正十二年ゆう
元　元禄三年　庚午まで三百十七年よなり
弱　二月細川北春ちう死三種の神器と南朝よやとし
癸巳二年　六月山名時氏伯耆ちう出陣て義詮と

甲申三年　乙未四年　四月弓氏已上
を伐ひて都に帰かへり直冬入洛二月北五日弓氏東坂
に陣し東寺に宮軍に戦ふ三月十三日帝還幸
丙申 延文元 九月北三日弓氏兵を○蒐狩
波集を撰ふ　丁酉二年　二月小朝の光厳院崩御
紫光院南朝より還幸　戊戌三年　四月四日天
龍寺炎上○四月北九日弓氏兵を等持院に号
を嬬男義詮征夷大将軍に任ず　己亥四年
十月将軍の机子仁木頼章死す○新千載集を
奏す○興福寺の金堂の釈迦佛眼より血なみだ
庚子五年　四月十二日を内裏より社頭動す○勅
て元亨釈書を文庫よりさし○大地震
辛丑 康安元 三月朝日京都八十六町焼ける○六月北
二月雪ふる　わづかしして冬なり○七月背の

山のうへに水ふる牧百町○周防の山の内中より
鼓いでる大さ北丈よりそだる　壬寅 貞治元
二月ひる星客星わくる○去る十二月五上江川より
なしひる尚四月十九日京都より還幸○七月北四日細
川清氏贈りそうら死　癸卯二年　六月十四日八
幡八祢興入洛　甲辰三年　畠山道誓病
死○七月七日光厳法皇崩ず寿五十二さい○新拾
遺集を奏す乙巳四年　三月一條内閣白経教薨ず
丙午五年　丁未六年　四月基氏薨ず瑞泉寺と
号す○十二月七日将軍義詮薨ず資薩院と号し
瑞山と号す○禁中疱瘡流行す　南朝
應安元 戊申年
朝の正平九三年に伝よつさ五年に伝北五年小弱

長慶院

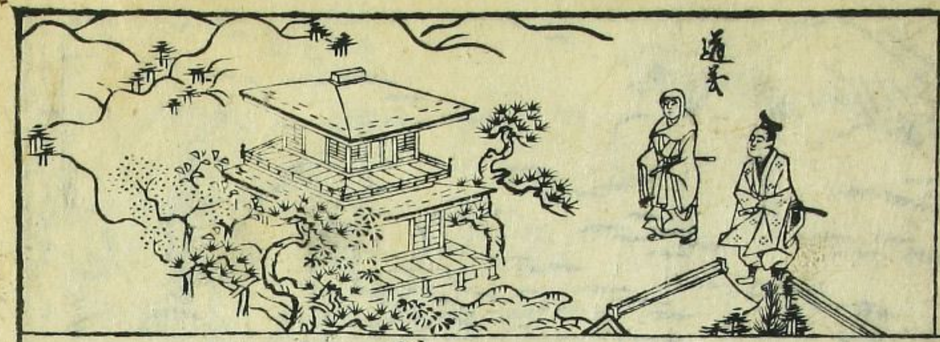


と和睦○二月禪宗の絶滅汝霖の支僧と大明国
につかはす○三月南朝の後村上院崩ず皇子寄永
位よ即ち○十二月義滿征夷大將軍に任ず
己酉二年　四月山城日吉の社興上の裏より南
禪寺を破却せんとす　庚戌三年
辛亥四年　二月山名時氏卒ず○菊池武政こゝ方と
なり南朝の支良懷親王とともに日本国王と号
ず良懷つゐに大明より使ひを遣す○三月小朝の後光
嚴院位を東支綸仁ちんのゆずりを受け即位○
十月在清水穀山を造替ず○十一月赤松律師則祐卒
壬子　南朝　建德元
九年　一百　後圓融院　偉仁綸仁とも後光嚴
崇賢門院と号ず四位辺大納言義忠の子也母は
位十一年

百　二條良基　太政大臣二條師嗣　関白
即人皇の始りより一年　ツの太祖の洪武五年に當
前　元禄三年庚午まで三百九十八年なり
南朝　文中元年　○九月万壽寺を五山の内より加
奏丑　南朝　六月大明の使仲猷無逸
六年　朝　朝の出慶院ちゆうと書ゆる○八月南
と没落す○九月二月大雨　才熙成王よりゆづりて吉野
甲寅七年　天授元年　正月洛北嚴光院崩ず壽北七十八
乙卯　永和元年　南朝　丙辰二年　丁巳三年
正月禪僧絶海汝霖大明より帰る
朝鮮より使鄭夢周きたりて筑西の採題今川了
後よりあきらかの○八月北月清水より山くずれ
戊午四年　三月義滿大追物を興行す○八月義滿

六月禅僧妙能と南禅寺の位あらそひす○りくはい星
いで大飢饉庚申二年　正月南禅寺の妙能と
師の弟とりくりくり傳縁すれども○六月北四日山名氏清
伐前そ壽六十さい○義滿鹿苑院あらべ家
憧寺とこんりうそ　辛酉　永德元　南朝　弘和元
十二月三日南朝の舊臣新葉宋祇葉を擁して奏そ
壬戌二年　正月北四日山名氏清赤坂とせめかてす○
四月後光厳院崩御　十二月郎位
癸亥
三年　百代　後小松院　諱ハ幹仁とゝ後光厳
ハ勇京の歳ゝとゝ通陽門院と号そ三條内府
忠のむすめあり　位卅年

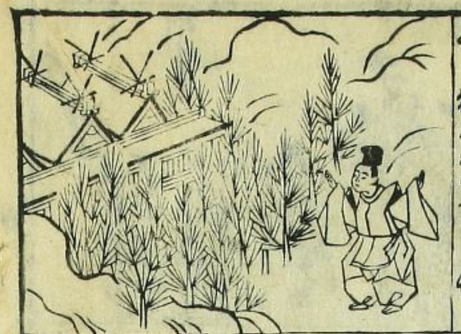
百二條良基　橋改
即人皇の始りニよ十二代　四の太祖洪武十六年に當
渭元禄三年　庚午まで二百五十八年ゝまり
十二月三條内府と忠義そ○義滿相国寺をそつ
甲子　至德元　南朝　元中元　平門　塩山こんりう○新後
拾遺集を撰乙丑二年　細川頼之阿波の賓冠者
とこんりうし　絶海あと宛山とす○義滿絶海とめして
笠持る仁侯　丙寅三年　義滿京都の内ゝ五山十刹
の席位とゝ　丁卯　嘉慶元三月近傍夜白道崩御そ
戊辰二年　三月近衛兼嗣そ○四月四日寺賞和
尚寂そ○五月大雪ゝ○義滿孔門のとゝ内より遊覧
富士山とゝ　己巳　康應元　七月西園寺実俊薨ゝ
庚午　明德元　七月七日大雨ゝて八月より辛未二年
十二月内日山名氏清内裏ゝ内せんとゝ　壬申三年



金くぐ

八月相国寺くやう○閏十月二日南朝小朝ゑぐく月
五月南帝三種の神器を禁中にとゝさう大上天皇
の号を奉りて後亀山院と号し延元二年に後
ごゝご帝吉野より儀幸しあひうこれまで五十六年
ぐるりはさび南小一統して天下平りう○朝鮮あの仕
きうて都ゑの好とうゑ滿行寂て　発酉四年
四月北六日後圓融上皇崩ゑ　壽北六さい泉涌寺に葬
ゑ○八月石清水の放生会をとゝゑ滿さんゑを
甲戌 応永 元十二月十七日義滿ゑ嫡男義持ゑ
に年九さいあり義滿江夫大将軍と義持ゑ
一休うまう　乙亥二年　六月義滿ゑ剃髪法名道義
天山と号て　丙子三年　七月道義ゑいはまろゆ
御幸に准せゑ　丁丑四年　四月道義ゑ
のゑ業をとゝまゝこれ也小山殿と号て今の金閣寺

これあり○八月遣唐使をさゝてゝゑ○十二月九條氏
薨ゑ○十一月十七日　建仁寺くゑ　戊寅五年
四月十三日崇光院前ゑ壽六十五さい○八月朝鮮ゑ
の使朴敦之きうゑ　己卯六年　九月相国ゑの
七年乃塔くやう○十二月義弘ひかんいづこのさうゆよ
てうゑ　庚辰七年　五月九條経教薨ゑ
辛巳八年　二月北八日内裏えんしやう○五月月蝕ゑ
社よて法花八講とおこなゑ○小野の泛愛と号て
○道義書ゑ大明ゑ皇帝ゑれたり黄金ゑうびよ
物とおくゑ　壬午九年　二月大明の建文帝書ゑ道
義ゑよす○九月道義小山ゑ殺て大明の使清道
一切ゑさいわんゑ使清綿綿ゑうびよ歴とさゝ○春
ゑ紀星いで炎大ゑ秋洪水大ゑ冬ゑ雷しん
癸未十年　六月北四月相国寺ゑ塔雷火○八月二日使



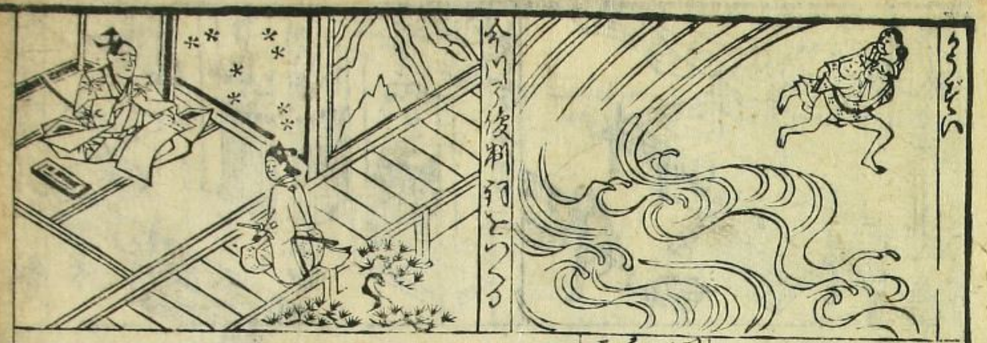
年代記卷五

陽和尚大明ゟ帰朝して詩経集註四書古集注を
ゟうきょう○十月太明の成祖書を道義ゟ也て即
位とつぐ○道義の子満弾ていそう　甲申十一年
正月下社のくに形洪八地やけいばり○五月太明の使
きょう○八月九條教房薨　乙酉十二年　五月九二月
日の祈木六子祿年ゆへ多くして枯ゟ○六月九日洪水
丙戌十三年　春天下そうん秋洪水大ゑ冬十一月前日
大地しん　丁亥十四年　六月五日地しん○二月三條
実冬刺髮　戊子十五年　二月六日朝鮮国軍の敵よ
ゟゟ○五月六日おゐ軍蒙満入道乃系薨を無
実院と号し○十二月太明の成祖書を義もよりゟ
て義満乃薨とゟゟ○朝鮮国象あつむときく
己丑十六年　○三月南鮮の使ゟいさゟう　庚寅十七年
正月九一日天地鳴動を　辛卯十八年　九月禅乃

ゟ月ゟ乃年ん

ゟ月ゟ乃年ん　壬辰十九年　八月九九日法
小松院位を貯仁ゟんゟゆゟゟ
癸巳　廿年　百代　稱光院
諱ハ貯仁とゟゟ仁
のひとめゟり主位十六年にして前を
みゟり母ハ光範門院と号を日能賜を太后資国
巳一條位教房白　二條持基左大臣
即人皇の数ゟ二十四代の成祖乃永乃十一年癸酉
酉元祿三年庚午まて二百六十三年ゟゟ
甲午九一年　十二月十九日そくゐ　乙未九二年
六月十三日ひとし乃祇興入洛しゟ寒して冬のに
丙申九三年　七月四日法門寺を十刹ゟ二ゟ位ゟさゟし
丁酉九四年　正月上杉禪秀ゟ乃　戊戌九五年
正月義満乃弟ゟ義嗣相国寺乃林光院ゟて薨せゟる

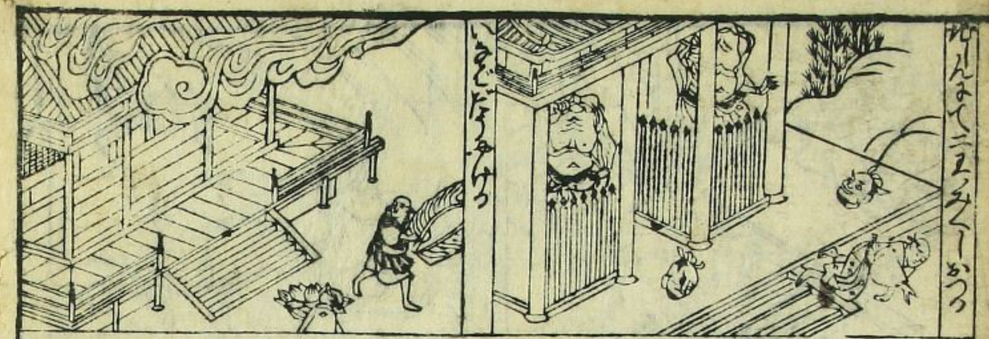
圓修院と号して○五月あ大納言滝幸と○十一月
一條実白經卿薨ぬ成寿と号して已実北六年
二月釋奠ありて○七月十三日太明出入使民潮
きろう　庚子北七年　かちのふくり緑の毛わろ
亀いぼ　辛丑北八年　四月大炊御門宗氏薨ぬ
壬寅北九年　十月十二日あ日あらべ生ろ　癸卯北年
二月征夷大将軍と義量ゆ使ろ○四月義持等お
寺まて荘飾法名道俊題山と号て○朝鮮より一
切經をおくる　甲辰北一年　四月十二日南帝保冠
さがに崩ぬ○十月後小松上皇相国寺まゆき
乙巳北二年　二月北七月ね軍義量薨ぬ　長得院と号
丙午北三年　丁未北四年　九月三日　洪水　戊申　正長元
正月十八日赤松軍義持薨ぬ　猪苗院と号て義宣
ぶまりて義持の牛寺蓮院門跡羊圓として



げんぞくせ一先義宣と号し軍と寺○月月野
資久薨ぬ○五月あ日赤太府冬家薨ぬ○六月
後大寺公後薨ぬ○七月北日補光院崩ぬ壽北
七さい宣崩ぬよりて崇光院の嫡孫光仁位
即ち北位北六年

百三代　**後華園院**

みかり母八敷政門後と号ぬ賜光院宣崩ぬよりて
即ち北位北六年
応二條持基　持基大政大臣
即入宣の姉ろ二子八女の宣徳四年にわら
崩元禄三年　庚午まで二百九一年よりろ
三月源義宣征夷大将軍に補ぬ名と義教とあらひ
○今川了後制行ろ○十二月即位　庚午二年



十一月大聲寺おこる　辛亥三年　二月後小松の
上皇崩御　法華経　素戔嗚尊と号す　壬子四年
九月十六日地震相州　大山寺の二王の頭北をむく
癸丑五年　四月義教ゆるす　神仏功の縁起を守
て河内の八幡宮　教ゆるす　○八月北五月大雨ふる　○十月北月
ほかに松法皇崩じ給ふ　甲寅六年　二月十四日いか
む豊かすべ万寿寺えんしゅう　○五月廣松さくら　○九
月十五日いせ外宮遷宮　乙卯七年　八月山門敗北
乃年あつし　丙辰八年　丁巳九年　戊午十年
八月光明井　祇園新續古今集奏上　己未十一年
二月高くらの持氏ぶい　○三月ひ紀星いん　庚申十二年
絶絶ひ四ん　○八月十六日天紅ひ　辛酉嘉吉元
四月十六日絶絶氏朝ようち死　六月絶絶ごまどを　春

ひ妻を西くまとのさうをん
けんくを
ささの社のけう

王安を家法の窩井にて害す　○六月北四日赤松滿
祐うを教康れ軍義教を害す　義芝院と号し　義
山と称す　癸酉二年　十月武峯の大蔵経入
源氏ぶいさく　○同月帝不例　○十一月七日源の
義淳伝夫大将軍に任ず　癸亥三年　七月北一日
軍義淳薨ず　○十六日慶雲院と号す　○九月北
三日の夜賊院ぶい　甲子元　元　三月大原十豆
内侍所をうばへく　○四月十日大わらい大さ　○十月東京
西京の商人酒麹賣買のをと論ず　西京北ようこ
ま　乙丑二年　十一月二條院白持基薨ず　丙寅三年
丁卯四年　四月二月南禪寺やく　○七月六月天龍寺
焼く　戊辰五年　水星地震　ぶやびやうきん

えんぎのことよりはるかきこゆるかね

ゆうべ月がべんけいたちをこしよろ

巳巳 寶治 元 四月九日改元 大地震 ○同月北九日改元

庚午 二年 四條院の乳母

伊賀太郎 軍に任ず

檜垣

辛未 三年 三月小白河の佛像ごく

壬申 寛元 丹後の海辺あらわれて頭ある死屍いつ

せうに緑志乃二年あり 癸酉 二年 六月北軍義

成名と改む ○九月久我相国清通薨

甲戌 三年 一位平均の徳政 ○奥州安慶在京極

の律師上乙変 康元 元 十二月嵯峨の院大地震 ○

和州嶽北入 熊野の屍をとこに入

八月太上天皇遠流 前中書王 嘉禄 八十五 丙子 二年

丁丑 長禄 元 五月十日さかきの池わくして血のごと

○七月北一日より田の面ころ動く 戊寅 二年

正月北九日 戊日 正月二日 清月いぶり ○

遠江 ときいぶり 己卯 三年 六月北日二月

ゆうべいづる○故田乃雷あんごうも

正月前日三川の月ゆうべいぶり○九月富士巻統うちち

乃ふるの城ようこりのけん○朝鮮人きうる辛巳 二年

天下ゆうべいぶり○八月近衛右府教基薨 癸未 四年

正月前日三の月ゆうべいづる月六日 戊日ゆうべ○三日

ゆうべいぶり 甲申 五年 四月 聞世音寺

泥そのゆ又三郎 勅使の中楽をとりよか

も 将軍 政所 ○七月 後死屍 後 成仁 ん

乙酉 六年 夏 後士御門院 譯 成仁 ゆ 後死屍

樂門院と号 大炊御門 府 信 ゆ ひもろあり

丙戌 北六年

(辰)二條持通　関白　日野弾正大弼

(即)人皇九十四代の帝　後堀河　文暦元年より元亨元年まで百九十一年なり

(嵯)元禄三年　庚午　慶長十二年　丁亥

九月十三月流星大よ昼る○十一月義政の息義尚うん生

丙戌　文正元　十二月九日大地しん

細川勝元と山名宗全とりかせんとれと義尚に礼とる

戊子二年　七月廿日大風洪水○九月十日つくしにかぶり

わらわ武さ丸餘　己丑　文明元　客星わらわる

○正月播磨書写山炎上○清水寺あらくはな雲居る

えんしゅう　庚寅二年　十二月六日門跡所昼動る

○月廿七日後花園院上皇崩る壽五十二さい

辛卯三年　天下赤疫て人かく死る○十二月朔

日大きうて星いぶり出さ一町ばかり　壬辰四年

七月三日あ田番昼動る○大ひでり　癸巳五年

三月十九日山名宗全卒る○五月十一日細川勝元卒る○義尚征夷大将軍に任る○六月一

龍安寺と号る○月四日

條大閤兼良薨る師匠成就寺と号る○月四日

甲午元年　乙未七年　八月義政書を朝鮮へはくる

六月播磨尼崎より大ゐ波とわ死る者数多人

戊申八年　丁酉九年　七月備前乃よりれうの家

ろはうと一すい余　戊戌十年　大田道灌武

湯島天神をいとる　己亥十一年　三河の星食

○義政ひぐ山東　東山殿と号て銀閣を化庚子十二年　正月七日大風

いっぱちの辛丑十三年　四月一條禅閤兼良薨る

○一休尚寂る　壬寅十四年　三月五清水の

やうに動る○五月十二日星月の中に入○十月久

我通憲薨ず　癸酉十五年　甲辰十六年　乙巳十七年
六月武政為師法名道禎うちん道慶とあらさむ善山
と号す○将軍義教動す○四月十三日東寺の法堂
一揆のあらあらやう　丁未　長享　元　九月江州の地こぶ頼ず
灌こわさる　　丙午文安三年　十二月大田乃
くわ軍義尚江州より發向す　戊申二年
九月九條政基薨ず○九月将軍義尚名を義熙と改
らむ　　己酉　延徳　元　三月北月小懐道より泥の函
九○月北六月将軍義熙江州鈎里の陣中に薨ず
常徳院と号す○四月義政義視の男義材を申さむ
て義澄乃家督をつぎむ　庚戌二年　四月七日京の
将軍義政薨ず　辛亥三年　四月七日義視薨ず太智院と号す○
の中ちよ史あり○七月義材征夷大将軍に補す

四月義政乃命ず政知足利より卒ず　壬子　明応　元　九月義澄
村細川陽元ばあ　癸丑二年　四月将軍義
ひこて京に甲寅三年　五月七日地震○十一月義澄と
通たる頭よ任じ名と家高とわるるむ○十二月義澄
征夷大将軍に任ず○伊勢新九郎相模小田原乃城
をばひとり材製して小條早雲と号す　乙卯四年
六月北月新菊玖波集を奏ず○八月十五日地
震ぶ　丙辰五年　四月北五日清二政基卒ず
丁巳六年　九月朔日大河成氏卒ず　乾亨院と号す
○十月二條尚基薨ず　戊午七年　六月十一日法
出大地震○武家の大きよくうんの像ぶ
己未八年　三月十一日熱田より大わるるとの○十
義澄薨ず　六月近場宗白政家薨ず　小條早雲

[illegible]十五下 平民ヲ[illegible]ト 紀[illegible]九年
[illegible]ハ[illegible]ハ土御門院崩ス壽五十九さい○十
月廿五日太子[illegible]仁ハ[illegible]ヨリ[illegible]さい○十一月
後白河[illegible]院と泉涌寺に葬る

[illegible]の木ちかくて

新補倭年代皇紀卷之六

文亀元辛酉年　百五代　後柏原院

諱ハ勝仁といふ後土御門院の皇子なり

母ハ従三位源朝子といふ摂政太納言長賢卿むすめなり

主位廿六年

位　九條尚經　太政大臣　徳大寺實淳　左大臣　菊亭晴季　右大臣

即　入江殿政為　卿の孝子なり　弘治十四年に薨

崩　元禄三年　庚午まで百六十五年なり

四月廿日わらはやみ大さ栗のごとし　七月改年号文亀と義尚こわらこむ○

文亀二年　壬戌

月ハ月宗祇卒ス

永正元　甲子　天下ゆうこん○十月武ヶ河越ヶ口ゆん

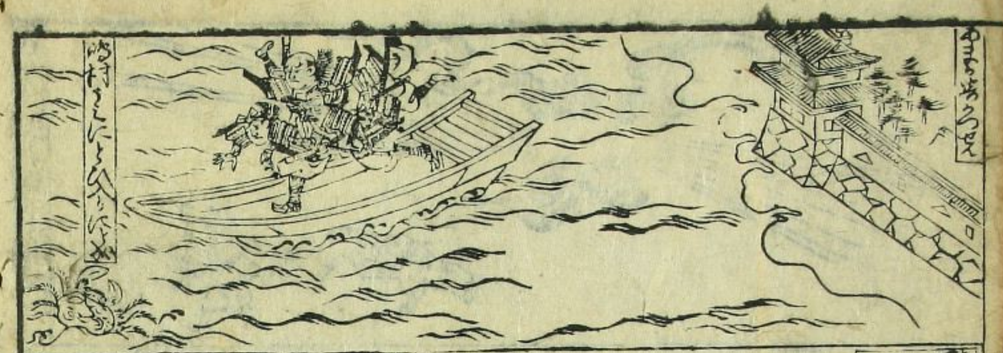
文亀三年　癸亥

六月近陽宮白政家薨ス　小條早雲ス

永正二年　乙丑

のみ民俗かざりもの武州より出り　庚寅三年
七月ろくがつ　ろくがつ　○九月ろくがつ　もみじ山　木七　牛祈
丁卯四年　六月　北三月　細川政元　義澄　ろくの大心院と号ス
戊辰五年　七月　義尹　征夷大将軍に補す　○京大ちゑ上
己巳六年　十二月　ろくがつ　社造ル
辛未七年　壬寅八年
八月七月北ん　○月北七月　李引ろ今切くづ　辛未八年
二月下ル　新兼倶　牛ル　○八月　義稙軍　義澄　江引　岳山
ま鹿ル　法住院　し号ル　旭山と称ル　○月北四月　舟岳
山ろつ　ぜん　壬申九年　十一月十九日　いせ大神宮　天上
癸酉十年　三月　稙軍　義尹　名と　義稙とわらとむ
甲戌十一年　三月一　條実　白冬良　薨ル　実十二年
丙子十三年　四月十一日　わられ　ろ大さ　ろ子のごろ　○同
月九　條お実　白政基　薨ル　○西三條四府　實隆　ていろ
ーて　薨ル　し号ル　○七月小條早雲三浦ろすどう

ちゑ　丁丑十四年　七月十二月　暴雨洪水　○十月
ゑる月お実　白政平　薨ル　戊寅十五年　四月　殺山の根
ケ中堂のく　中　義稙　宅山　己卯十六年　八月小條早
雲死ル　庚辰十七年　細川ろ　ゑ　桂引　ル　湯ゑ　塚
ときつく　辛巳　大永元　三月北三月　部位ろ　禮ル　ゑ
こ和ろ　○十二月　ろ軍　義澄　の息男　義晴　征夷大将軍に
任ル　○月北二月八　ひろ物ふ　ゑ　ふ　○二月十二日ゑ
軍大塔　夷上　壬午二年　癸未三年　四月　ろ軍
義稙　わい北ろ　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ
又　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ　ル　ゑ
四　義　與　宗　役　と　太　川　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
丙戌六年　二月十六日　春清水八幡　遷　甲申四年　乙酉五年
月後柏原院　崩ル　壽六十三さい　○月北九日　ゑ　ゑ
さんさ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ



丁亥 七年

(真)

後奈良院

禅八郎[illegible]の陰相原院の皇子なり母は准后

爰ゝに贈左太后敏秀のひとりの立后此一年

(后)正清楠家 太政大臣 一條房通 左大臣 一條兼冬 右大臣

(郎)人望の妖ゝ二ゝ百年家門世系の嘉清六年に南

(嗣)光孫三年 庚午 まで百此四年まで

三好海雲と紙川 [illegible] 戊子 [京都] 元

九月初年美味[illegible]

己丑二年 ○初より日蓮宗[illegible]族大[illegible]成ぜり 庚寅三

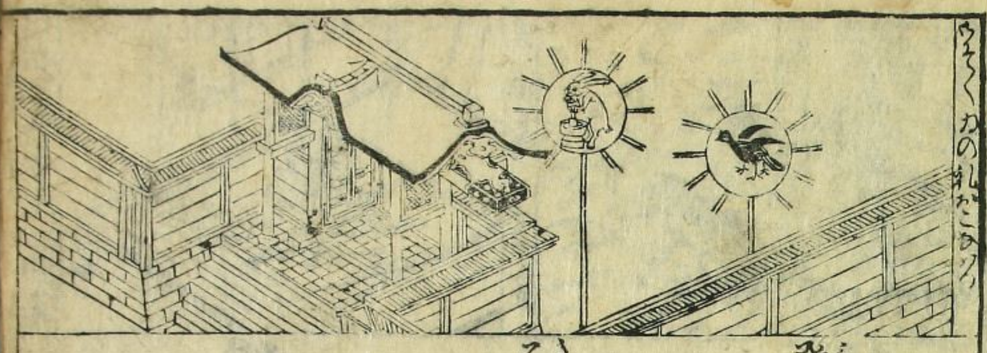
年 四月九條関白尭 辛卯四年 六月紙川[illegible]

三好海雲と[illegible]花[illegible]花[illegible]てらせんしゝる国害せ

らるゝ[illegible]新[illegible]来[illegible]とのかはくしゝて敵

二人とも死をうんで海よりげて死そのあ美化し

て蟹となりうれを[illegible]村蟹[illegible]○月九日[illegible]



良よわゝふつて○七月興福寺えんしゝう 壬辰 [天文] 元

三好海雲[illegible]○七月九日南[illegible]民屋[illegible]

癸巳二年 十月八日[illegible]星かく海陸よ[illegible]

○十二月[illegible]の[illegible]

甲午三年 正月[illegible]

よりこの[illegible]○月[illegible]四の[illegible]

○[illegible]りて疫病[illegible]

乙未四年 [illegible]

[illegible]大川[illegible]

二月[illegible]

[illegible]川[illegible]

[illegible]中[illegible]焼失[illegible]

十月遊[illegible]○十二月彗星[illegible]

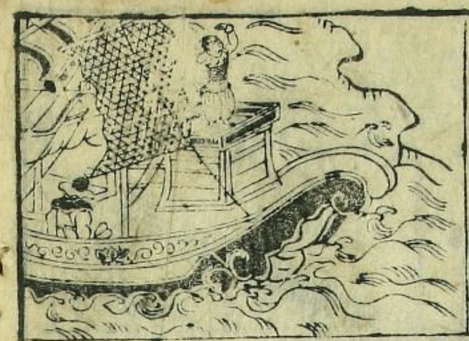
[illegible]氏康[illegible]

八月十九一條房家[illegible]○月十七

日大雨洪水 庚子九年 [illegible]天下[illegible]

人[illegible]○四月九日[illegible]

辛丑十年



八月十一日大雨数〻たん　玉寅十一年　十二月北六月
清和天皇北五代の御苗裔新田廣忠卿の御子　征
夷大将軍源家康公登門　公時よりて御誕生
癸卯十二年　正月八日のひら晨よりおもしろくてこと
程なのてけいとうくるふ　甲辰十二年　二月西三條公
條中納言共　水しも陸より東ヒゆる　乙巳十四年　丙午十五年
八月北三日西の刻より黄色のうろこ　うこれて人
うつりて　○十二月廿日将軍義晴の息男
義藤　征夷大将軍に任ず　丁未十六年　二月三日白山
ゆけ出る　○十月大門義隆貢船を太刀よりつかせ
○四月吉田寺　如堂　戊申十七年
己酉十八年　黒雲　○尾州織田信
秀乗を信長の父　庚戌十九年　五月四日将軍

義晴　宗太山より　○八月二日大雨
洪水　辛亥二十年　三月三日三好長慶條中の
地より銭七〇　○七月　長慶相国寺を焼く　○八月
周防の義隆ぶらいとの〻　太刀勘合の船をしたゝめ
こゝよりして後海賊　壬子元年　癸丑元二年
甲寅元三年　二月一条関白兼冬薨　○将軍義藤
と義輝とあらしむ　○五月白山より　おるこの　弘治元
丙辰二年　七月太刀の使節舞ちさう　己巳三年
九月五日後奈良院崩　○寿六十二さい　○十一月北七月
望の方仁ちうの御　譲ハ方仁ちうの御奈良
院の宣旨あり　ハ時宜
永禄元　戊午年
百代　正親町院
后宮ゝ　義藤　賢房入ひしめあり　左大臣
近衛前嗣　関白九条兼孝　左大臣　二条晴実　内大臣

部人望八姓ちゝ二十七ヶ所の世系八春秋清光七年に編

翻元禄三年庚午まで九十八年まゝ

九月ね軍義輝ね軍山よりはし松永弾正と白川合戦

○天下ひでり　己未二年　庚申三年　正月廿七日に

伊勢ゝ乱とおこりろ毛利元就その料をたてまつる

て大猴大夫より任し菊川ハ沛紋とのゝ○四月四日ゝ

月ま八○五月信長義元と戦く尾ヶ谷をかさし

辛酉四年　九月十日上杉輝虎武田信玄と川中島

よてうせん壬戌五年　六月廿三日く田能ゝ合戦上

癸亥六年　四月二日東寺ハ焼雷火○十二月三條

称名院ハ勇義元　甲子七年　丹波のくゝ

七さいハ女子みさし　乙丑八年　五月十九日三

み義絶ひらんしてね軍義輝　ちゝい光秀はし号て

丙寅九年　丁卯十年　十月廿四日ちとうれ社頃

木津のんでにたゝかふ

ぢぐんど

戊辰十一年　二月義栄征夷大ね軍に任ず　己巳十二年　十一月信長支

八月義昭征夷大ね軍に任ず　五月ま薬ず○十月十

辛ゝう上洛して内裏と修理　庚午元亀元　六月毛利元就

辛ゝ○十月小條氏康卒　辛未二年　九月十二日殿

山おゝびよ山立兵火ゝて炎上○お頭ハ無いハる

壬申三年　癸酉天正元　四月四日上杉火ゝ○八月

武田信玄卒ゝ○八月朝倉義景家滅ゝる浅井氏

改元ゝ○十月廿八日大ゝ甲戌二年　三月信長殿

して東大寺ハ業秀寺ゝ○七月信長信忠父子

尾ヶ谷ハ殿ゝ長ゝ一向宗の一揆とせして亥三年

秀吉筑前寺ハ任じ氏を羽柴しゝ丙子四年

四月大坂本願寺ハ光佐木津雑賀の城とうまゝ○十月

廿七日ゝとよして社炎上○五月信長本願ゝ領ハ

とうつせんし木津弥陀ノ堂を焼ぬ○同二月天王寺の法堂共丈丁丑五年　二月信長紀州雑賀の一揆
さいご○九月廿九日大ノ彗星坤の方よりでる月
こへてさへも○十月信長和州信貴ノ城をせめかこし
松永弾正ひけ九もそろひみ久通うしろ○同月秀吉
播州と戦も○九月　兵乱
三月上杉謙信卒も○五月十二日大雨ふる　戊寅六年
己卯七年　四月七日　家康ノ三男秀忠ノ誕生
○五月洛土京日蓮宗と江州安土よりてちうちん
庚辰八年　長炎え
ちうぬく○七月大坂ノ法光院と信長よりし
雑賀ようつ辛巳九年　正月秀吉播州ひめぢノ
城をとる○夜山炎上　壬午十年　正月十五日の
疫ノ病ノ気小ノ流ノ○六月二日信長明智

光秀ぐあに京ノ内じておゝ信おゝ二条の御所よておゝ
光秀京都の地ノ町人をうつ○同十二日
秀吉よりぐうれて光秀伏見よりゆき野伏よりうさ
ゐ　癸未十一年　四月宋田勝家ぐゝ五月
秀吉大坂ノ城ようつ○琉球ノ使来甲申十二年
山ちノ一弟二頭ノ首を生乙酉十三年　三月秀吉根
来寺を破却も四月高野山ノ制法をさだむ○七月
秀吉関白ノ任も氏と豊臣とわうさむ○十月九
月地しん　丙戌十四年　七月九日法仁ちんとう
堯も陽光院し遠も○十一月七日正新町院ちゐ
と宣孫周仁ちんをうけゆづりノ月九五月御そくゐ

下支
十五年

百代

後陽成院

澤ノ周仁とい陽光院
のたゝみより冊ノ新院
院く号も勅修寺ノ内府晴秀ノしもめりもと

位北五年

(巨)近湯信基 関白

(即)人皇八拾九代 元禄三年庚申まで七十四年まろ

(弼)元禄三年庚申より三千二百十壱ヶ年の行家の方暦十五年に當

秀吉家系の墓をさはく

戊子十六年 四月十四日 聚楽の第に入ゆさ○洛東

の大佛殿○十月 秀吉小野の茶会を催す

延暦寺の修造をとゝむ○淀の城こしらへ

已丑十七年 四月 秀吉小田原をせむ 條氏政氏

庚寅十八年 直江うけんを○朝鮮のつかいきたる○織田信雄を出

羽の国よりおこれ○こゝらの使きたりて和をこふ

辛卯十九年 六月 北八日わくれ方大さ瓜のごとし○

十二月 北八日 秀吉の養子秀次関白を任ず 壬辰 文禄元

三月 秀吉てうせんをこらして遠征の事をを擒し

久多○三井寺の僧侶ひ癸巳二年 四月五日 親

町院崩ゝ壽七十ゝ泉涌寺に葬る○四月九日秀

吉の次男秀頼誕生○月 大明国より使きたり

て和をこふ 甲午三年 秀吉ものおもひ山より

堀をさらく○七月北二日 東寺の塔くやゝ未四年

七月十五日 秀次の北山より出ぶい○八月十日 大雨洪水

丙申 慶長元 象康公関大后を任ずる○こゝらの国より

已酉遊撃の軍をはりて和をこふ○天下大よ疫

○閏七月十二日 北しん用をこうてまゝ○流行毛

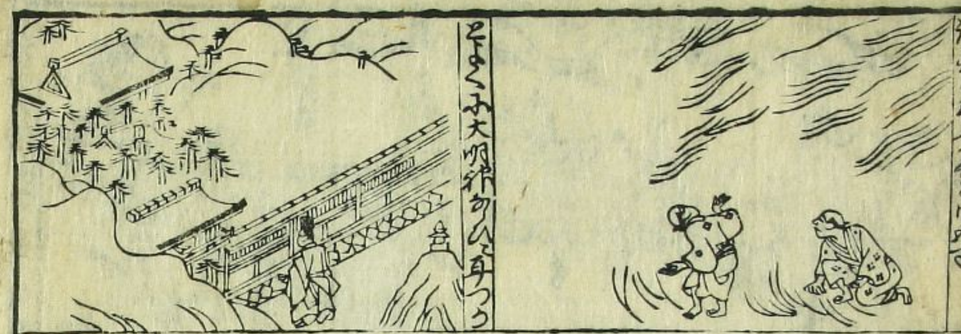
とゝくゝ出さ四五す 丁酉二年 八月十五日 石

光寺の如来入洛○月 北八日 相軍義弘薨ゝ

陽院ゝ号ゝ成三年 八月十八日 秀吉薨ゝ東

山より葬る○月 北二日 大佛殿くやう○十月 耳家ゝ

已亥四年 四月十八日 秀吉と豊国大明神と落ゝ



庚子五年　天王寺修理くやう○七月石田治部少輔三成ひかんす月三成珠ゆるす○貞親改要の板ゆる

辛丑六年　壬寅七年　十二月四日洛東大佛燬失

なよて寅上　癸卯八年　二月秀忠大将軍に任そ

三月家康公征夷大将軍に任そ　甲辰九年

七月十七日秀忠公の嫡男家光公誕生　乙巳十年

秀忠公征夷大将軍に任そ○十二月十五日南海よさ

ざあをかうして八丈嶋のかたりに大なる山出いづる

丙午十一年　朝鮮人僧松雲さうして和とうよ

りて俘牧方人くさうて○武州江戸城をさ

ついさう成りて仕ぜるる丁未十二年　駿府の城をさ

さる○朝鮮国より三使さうして貢をさくぐ

戊申十三年　和州多武峯の大なよくりんの像ゆぶ

出さけて年をとている　己酉十四年　三月四日四

八丈嶋より大なる山出る

四角なる月いづる

角なる月わるるとて花ちづひす春らしし　庚戌十五年

尾州の珠をとる○唐船の大寺をて琉球をさしむ

ゆるす○九月北二日秀忠公東大佛敷さいう

辛亥十六年　三月北七日陽成院くらゐを改仁ちんうゐ

ゆるす○閏月北八日　家康公秀忠公家ゆる舎人

加藤清正池田輝政卒ス○四月十二日御即位

壬子十七年

（夏花）

後水尾院

八中和門院と共に近衛関白青蓮院のひめ

主位十八年くらゐを位女ゆるす

（巳）九條忠栄　関白

（即）八宮の姫ち二百四十五日の御家八万暦四十年仁尚

（閏）元禄二年　庚午まで十一年ゆる

七月北四日わるれる

癸丑十八年　甲寅十九年　四月十六日大佛殿の続とぬる○九月ちう十月まで紫野近邊の人祇園ぎりといふ

○十月北五月地しん　乙卯 元和元　五月七日大坂の城かい落 祇園社佛閣民屋焼くる○八月秀忠東へ下野日光へ

丙辰二年　四月十七日家康公御遺骸を山へ葬る　勅して東照大權現と称す　丁巳三年

五月朔日あられふる○八月北六月洛陽成院崩御泉涌寺に葬る　戊午四年　八月六日六角堂やくる○四月

八月ひろ星出　己未五年　夜ごとに白乳あり　南まわろ　冬まで夜ごとに白乳あり　牛角のごとくにして長さ枝十丈○ひ

ぐゝし東へ方まわろひろる芒ゆうぐゝし　庚申六年　二月朔日三月四日洛中の民屋やくる○五月

十二月蓮慶寺卒　妙壽院し寺　辛酉七年　六月十八日秀忠公の御むすめ和子御入内女御よたち

のつち御ぐ　壬戌八年　癸亥九年　七月十三日家光公御上洛○閏八月北七日家光公伊夷大ね軍に任ず

○十二月十九日女御宮女ごんゝん生　甲子 寛永元　二條大坂あ所の御ぶしん始る　乙丑二年

二月むしの日よ　丙寅三年　四月ちう八月

まで ひろう洛中井水ふる○九月六日二條の城ゆ

幸　丁卯四年　四月北一日地

十月遷御

九○八月六日ちうぞい○南禪寺の山門ぞうじ

戊辰五年　わろうたぶ義

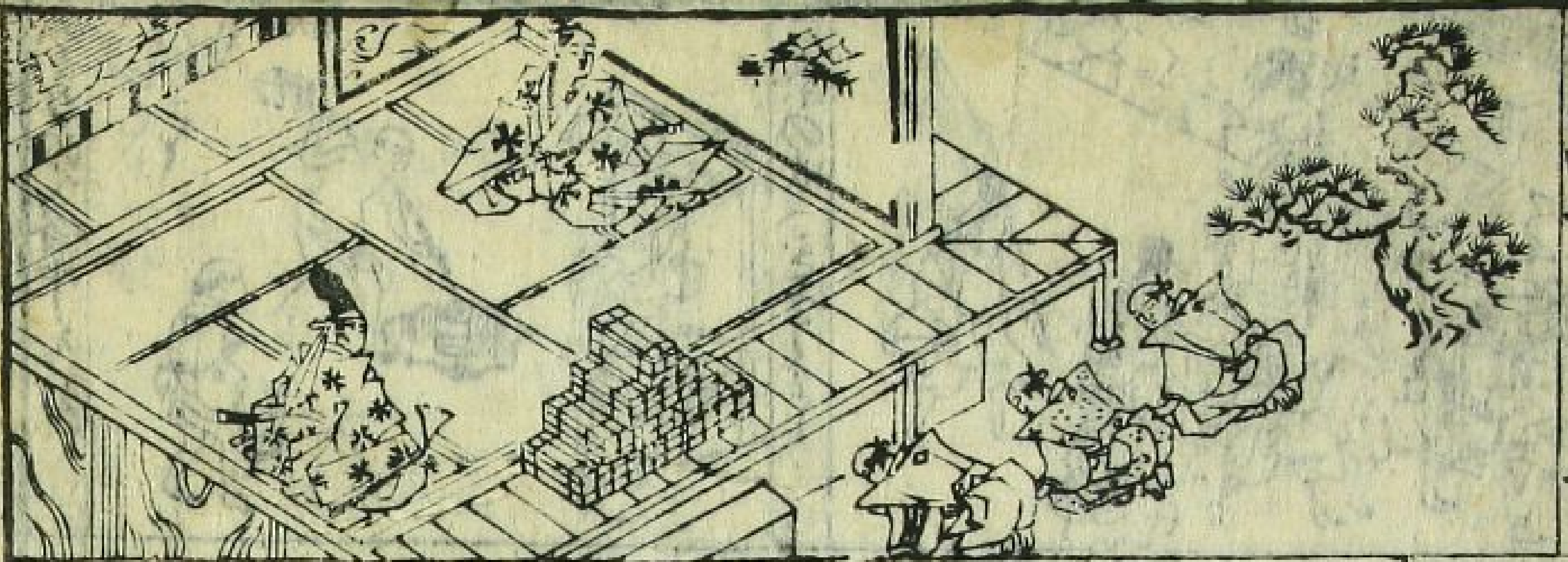
仕月一津ふる○わろうたぶ義

清水寺えんぶつ佛閣傷ろいくゝ○月北一日いせ

あ宮の正遷宮とかこみろ○稚儀澤菴とのゞす武

州の東海寺に宣　己巳六年　九月十日洛あ

を宮女よゆばらま○十一月八月洛水産陽ぞる



御諱ハ興子と申す後水尾院
の皇女なり御母ハ皇太后源の
和子とて東福門院と号す大相国源秀忠公の御
むすめなり御在位十四年

庚午七年　百九代　本院

臣　一條兼遐　摂政
即　人皇の始より百九代明正の帝の御即位

九月高野山ゑんしやう○同十二月御即位○織田
常心卒す　辛未八年　二月廿二日清水寺内陣造
とうじゆ○三月紘風よくろふ○四月天気しごく
丹のごし○十月よく天気よろし　壬申九年
正月廿四日征夷大将軍源秀忠公御逝去
上寺ニ葬る台徳院殿と号す○七月法皇
のけぐんより丹波の千畑の法常寺をこんりう

開山ハ佛頂国師
紹巻院ゑんしやう○同九月桐引やぐらしんゑる
なされ死も○上野の孔子堂建立
七月十一日将軍家光公上洛同七月京の町人に銀
五千貫目下さる　甲戌十一年
裏に御かうし○十二月七日の夜東寺の塔えん上
参詣の角一双を東照宮の庫にをさむ○寺社領の御朱印
十二年　乙亥十二年　七月廿六日天
赤くして火のごとし○十二月七日の夜東寺の塔えん上
申十三年　四月三月将軍家光公日光山に御参詣
とおこなはる○七月南海めい動す○十一月朝鮮より
の使来朝す正使ハ白麓任絖副使ハ東溟金世濂
従使ハ靑丘丁丑十四年二月禁田のとしげくるこつ
ありて火○同三月千代ひめ君御さんじやう○七月
八月星月とならぶ○十月九月さがの清涼寺えん上

○十一月ひぜんの国より切死丹宗の一樓を切死丹宗の法を切死丹の法を禁ぜらる
戊寅十五年　二月　法を禁ぜらるる
三万七千人　絲を
中和尚殺す　○
己卯十六年　正月廿一日　鎌倉
ぜんとゆる　庚辰十七年　備後より牛　○寛永通寶の
辛巳十八年　八月　三月　松軍家光の嫡男家綱
壬午十九年　七月　家まで天下をさん
癸未二十年　六月　四人の使ところ　○九月廿七日
本院位を綸旨　○十一月三日　ねをくね
正保元　甲申年　(百十一)　後光明院
御所八王生院と号す　園基任卿　内ひとめあり　御
尾院　一の宮あり
立位十一年
(百)　九條道房　摂政

(即)人皇の始より二十三代の累代の累年十七年に当る
(百)　元孫三条　庚午まで　此六年は宮
法家系図三百七十巻をえらぶ
乙酉二年　正月九日　三月わさごの社えんしゅう　○三月
十五日　月赤して　○四月　深家　正二位太政
宣旨　任ず　○洛陽五條の石じし　成就　○五月九日
三条の戒光寺　○泉涌寺　○かぶの前田
光る卒す　○八月　清天法　とけて　大義
徒の板行　丙戌三年　四月　深家
光の三男　綱吉　○十月　大明
の使　加賀　○十一月　深家
感神院の造　丁亥四年　七月　南蛮の船切死丹
えんしゅう　生きながらして　○十一月十三日　薩摩守

天下ノ諸人とゆるす

[illegible]久ね軍家の命をうけて武門より大道物と興めし
ね軍家光公帰依あり後御法大名付侯　[illegible]子

慶安元

二月十五日改元○四月廿二日北条[illegible]箱根の坂くづる
○備前海より黄眼太師の骸と流る○六月東照大権
現近衛のうち大敵わり○日光門江府より[illegible]く○
六月十五日[illegible]寺を[illegible]○外交の文庫を[illegible]

己丑二年　四月十七日象[illegible]日光山より御[illegible]
五月十三日武州川越より[illegible]大さ九ツ[illegible]
[illegible]くる○六月廿日武州大北[illegible]庚寅三年
四月ひさちれ[illegible]より[illegible]氷ゐ○五月七日尾張大納
言源義直薨す○六月四日毛ゐ[illegible]す○八月
廿五日陽光院の[illegible]より瑞龍寺を[illegible]
○九月[illegible]水辛卯四年　二月五日朝覲の[illegible]幸○四
月廿日ね軍家光公御北界日光山より帰[illegible]

[illegible]

大酔[illegible]と[illegible]○[illegible]象[illegible]征夷大ね軍に任ず
壬辰　承應　元　二月六条道場[illegible]○九月十八日[illegible]
癸巳二年　二月十三日[illegible]西[illegible]○六月廿
三日[illegible]裏[illegible]○[illegible]
[illegible]方[illegible]火[illegible]○八月[illegible]よりく洪水○九月廿
日琉球人江府よりきろう[illegible]国領[illegible]○十月二日[illegible]
[illegible]甲午三年　三月十一日[illegible]御造[illegible]
じまり○五月廿五日[illegible]帝[illegible]○七月六
日黄檗山万[illegible]山陽光[illegible]
[illegible]つく○九月廿日[illegible]光[illegible]前御[illegible]寿九二さい十月
十五日象涌寺より[illegible]○十一月廿八日良仁[illegible]

明暦元　乙未年

百十二

後西院

[illegible]帝[illegible]八良仁[illegible]
[illegible]院宋[illegible]の宣みより御母
[illegible]春[illegible]
[illegible]櫛笥隆[illegible]卿の[illegible]

御堂関白

寛仁八年　甲子

二條光平　関白

人皇の始り　神武帝の永暦九年代わり

元禄三年　庚午　まで六年より

○九月十二月釈尊の仏像来朝　使来朝也

従事官八南龍翼学士八秀吉移

黄蘗山萬福寺と建立す

○十一月四日隠元禅師　黄蘗山萬福寺と建立す

○月儀式あり○月疫

正月廿三日ひでん

使八瑜瑞　斯番使八

寛仁二年　丙寅

正月廿三日御所ハ

○月疫

寛仁三年　丁酉

正月十八日十

九日江戸大火す　民屋ち御堀まで焼かれて五

百余町　ひけれとも　枝葉まで　たゞいと深川ようびし

死人のさわに寺とち田切院と号して○月廿三日林

道春卒也　羅山子と号し　戊戌　萬治元　正月十二日廿

一日江戸大火す○七月廿八日改元○月洋蛮来朝

卒也○九月大坂の福王の后　鄭芝龍ゴ　泰宮日本

加州ゴとふ○十月十二月前田肥お寺利常薨也○

十二月廿九日い世の門突えんしつ　己亥二年

正月廿五日京大火す　京西一町南小六町家ゴ焼

五百けん○四月八日門突ゴ　○六月七日ひさら

の山よりあれろ大さ並ゴとし　庚子三年

五月ふよこく洪水　ゴ　しゐれか川○六月

いづち大坂ハ堀ま　ゴ　屋大えんしつ　庫に入て

死くづ　ゴ　えんで民屋さ　ゴ　人とされ死也

辛丑　寛文元　正月十五日門裏えんしつと京寺社

民屋ゴ大○四月廿五日ひんぐん○七月廿九日水戸ゴ

屋焼也　壬寅二年　三月六日ゴ　北日まで

夕の日赤して　血ゴ　○五月　ゴ　地しん五条の

しをち柄木　ゴ　土民　ゴ　○六月十三

日下部のくみ掛師こうどいしてかげ三記ろも
のしれてぐかほしい〜○十月大隅らくみ地しん海水わ
れ陸ゝ

発邪
三年
百十三

仙洞
御陣八瀧伝しいこ法水年
院宣十二の望よりの山門

八新廣義八院と号て崇光太后基音卿のれし
ゝめあり御立位北三年
(百)寿司意神 橋改
(即)人宜の姫ゝ二百九十二年

四月北六月ほ西院れくゝ為をゆ波り来○月北九月仏
門女院東天ゝ御幸○四月北月ね軍家月光ゝ
ゆえんけい○同北七月御ゝくね○五月北月ね年
天下ゝ狗をやゝしい　甲辰四年　四月八月じ

笑し源氏の大佛ゝ造をつくる○八月い四門ゝの
雛木ゝくゝ折ゝ奉幣使を伊社ゝつ
ゝ○九月十六月勝ゝ天ゝ川ゝ内ゝ
かげ三記ゝ死ゝ人の数十人○十月異星ゝ
わゝゝ川をこゝて　乙巳五年　四月二月大坂
ゝ天守雷火ゝ上○六月ゝて遷宮○
寺社領の御朱印ゝ
ゝ飛ゝ
ゝ飛布の丈ゝ
そゝめて二丈六尺ゝ○七月北五月観護院門
流ゝ人○冬ゝ
冥月不受不殺の僧法ゝ○五月北六月江戸ひ
ゝ○東山法会八山中ゝ業師の家ゝ
丁未七年　二月十二月南北ゝ二月堂ゝ本

宝亀八年　四月白気ありて小わらわらの樟の
己酉九年　四月北はるの百日がわいで小野の松の
と四条のうらにて法花の貧人よ粥をほどこす○二月
四月小野の八重桜成就○三月十一日流星ひゞく
にゆくえ知れず雷のごとし○七月十一日天狗星東より
ふる○九月北六月北八日伊勢太神宮ぐう○十一
月新月朔旦冬至の日雲なし府
教年号の御ひもめ教りの庚子入庚戌十年
八月北三月橋の大石堀とりて時は西海のうち
なりうちとりて新波の色よわられ牧方のさに
いら崩れうちたびとかがき死とりされ牧られて
辛亥十一年　三月ち六月まで洛外ら所寺の死の門

てんく星ひゝ南よりふる
十一月ふる雷の死ゝく

ふりつゝ○七月四日ゝ江府よりうの時ゝ地震
拝ゝ○十一月朔日山田の民屋ひゝ○月橋の
年丹山の清ゝじれ死ひゝいて去のごとし又東の家
死ゝ壬子十二年　延寶元四月十一日震
藥山環元禅師寂ゝ○五月九日の夜ゝいゝ仙河女
院新院の所ゝ民屋五千軒余ゝ○
九月九日乙巳二年　二月九六日の夜ゝ一丈ゝ
うゝ黒雲ゝ西よりゝ東へ空中に橋をうけ
ゝ○四月十一日東の近ゝこうゝい橋の水
われて三条の大橋くづれ○六月十一日洛中
洛外われ丈ゝ寺のごし雷ゝわゝうゝの底
とゝ○月十四日東の又こうゝいゝるかゝき死
ゝ松ゝ乙卯三年　春ゝゝん三月ゝ五月まで
小野の松ゝと四条ゝうゝて法花の貧人よ粥をほ

いせ屋の橋

いせぎ寺○九月三日宮ゐれうぐ○十一月廿五日洛西乞食の民屋ちう火いで本院御所法云家ち火

丙辰四年　三月江戸山寺ゐれうぐ○夏法花洪水五条三条の橋ゐんぐ○十二月廿六日の愛仙河女院ゐ御所ゐ不ゑ

寿泉寺女院ゐ新造ゐ○夏雲ゐれうぐ

戊午六年　五月ゐ女院ゐ御所ゐ

十五月女院ゐ崩御ゐ○六月東福門院と落ゐ○九月たる頭絶軍発ゐ○十月廿四日石清水の放生会をさいこうゐ○洛西西ゐ

くりんじゐ極楽ゐ

十五月新井虎ゐ鐘楼ゐ

己未七年　二月賀茂の社御会ゐ

貴布禰の屋ゐ造替ゐ○三月

七月ゐ今えまゐ

洛西妙心寺ゐ法堂ゐんぐ○四月三月いなぐ堂の業師ゐ○五月百万遍ゐ御えいだうゐんぐ○六月十八日白川脇ゐ法華ゐ　庚申八年

○六月廿三日百万遍ゐ霊和尚寂ゐ○三月十四日洛土四ケの本ゐ禅林寺ゐ長老大師千年長の法ゐ○四月日赤しゐ丹のぶ○月十五日

ぎゐくゐ小長くゐ

戊未引田築地西ゐぐゐんぐ御堂ゐ○五月五日弘文院春斎宰ゐ○月八月　征夷大将軍源家康

巳酉北東門東叡山ゐ

院殿ゐ後ゐ勅ゐ

牛ゐ○ゐ五月今えまゐ

まで延ゐ○七月廿七日今えまゐ○八月

月七月祇園会ゐ○月十九日　法皇御崩寿

八十五さい月北六月氣瀬寺より船にて水尾院
へ遷幸○月月日崇御門院遷化○月比東海道
洪水人かず溺死○九月ゑと十二月まで雨わすれ○十
一月白氣西南の方よりあらわれ光東へさしひろき
二三尺ばかり数十丈その根より星あり月をへてさゆ
ゆ長庵星とみづく

寿西

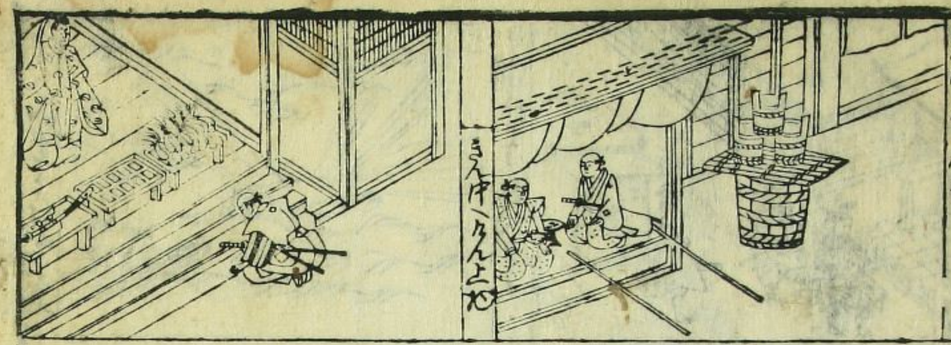
天和元五月源信吉
公西二位門大臣征夷大将軍兼衣近衛大将より任じ
奉る宣で右大臣より任じ○武州わさくさの門岩
をひろめる○九月井伊掃部頭御上使として上洛
○月北九月改元○十月十三日日蓮人の四百年忌
と本末ちまて修せ○十一月北八月江戸皮田久保ち
火いでて芝のれ山まで焼○大和国四十余ケ所ち大
○月月江戸ち町人御救米三万俵と拝借せ○十二
月十三月門跡えんしゆう　壬戌二年

府冬空ゑ国白ま任じ○二月きうん繚乱かし○四月
伊勢門跡えんしゆう○月八ゑとの備城やくる○紙
屋小路の女郎ま御四ぎゑ○ゑとうと人江府ま
ゑう○京師東門ぞくびやくゑう○五月山ま石ろくに
祥院天女ちゑう○ゑびやきたるのさめ海ゑ波の
峰不動ちいたゑう○七月十三日御積院の方丈えん上
○八月和蘭ゑのたゑハ江府ま出ゑう正使ハ尹趾完
副使ハ李度綱縦ゑハ朴慶後九月六日ゑ○十二
月北八月江戸大火ゑ　癸亥三年

正月江戸大ま
ゑう○四月五月日光山地ん○六月　ね軍の令
僧松平右京亮逝去○六月ゑちごの国栗原谷まで
くくぐれもちこゑて谷づけく　拝こいふその大さ
四尺八寸鼻ち耳まで一尺八寸にゑ　あと足　尺
六寸毛ち文わ口ち眼三寸牙上下八寸凡五寸足の

ぜさ三又八すんぜさ五寸○十一月三井寺にて智
証大師八百年えを修す○十二月五日江戸火事
野子[illegible]を正月三月延暦寺にて元三大師七百年
えを修す○十九日黄檗山木庵和尚寂す○二月
廿一日いぶん○廿七日の夜洛陽四条室町より火出
て北火数百軒○三月廿一日東寺にて弘法大師の
八百五十年えを修す○四月五日一条の華堂の
うら寺町より火いでて東えの所ゑびす法ゑ家まで
火○東寺の教義山護国西院より弘法大師月北の
大黒天ゆらゆら○十月九日暦をあて新暦と定
ゆえに頃い負寄暦と号す乙丑二年　二月廿二日の
夜流星ひゞ南より西へいらそのひゝ牧百里とて
らそこづくしてそこに変あり雷ひゞ○一夜新院
御三月廿日泉涌寺に義孝法西院と称す○

五月廿二日　法西院の御母御匣殿薨御す月泉涌
に義孝逢寿院と称す○同寅三年　二月廿三日京
くらの西ゆりて家牧ケ原より○四月別日の夜洛陽
二条白山より火いでて牧百軒ばかり○六月三日の夜
洛陽上御霊の社ゑづくこの三一造替あり○同廿七
日ゑびの宮伯のあの海ゆらゆらひゝ
水中をさぐりて一尺七寸の仏像をゑりその
ゆゑ白く万暦丁酉廿五年　季夏吉
日庭塔本里参政王叔東同妻陳氏項師と号
○九月十七日ちゝ廿三日よりうまで法光院廿三年
えを御清涼殿まで法ゑ八講を修す
うゝ○十一月十八日より霊造替ゑんぐゝ○こゝ
御霊の社の造替をとしゝ丁卯四年　四月春日神
殿へ行啓○同廿三日御ぐんぐ○同廿六日の夜洛陽



あと町より火いぢう○二月廿一日の夜丑の刻より大ふ
ふ流星昼の如し○三月十五日田中寺改寺三万は
ノ廻向あり○同十一日より糸九条成兵ちろくゝん書
ちろくゝ○同二日雷鳴○同廿一日御遷座ノ祈り
洛中ぞうん番○四月廿八日御遷座ノ祈仁まゆづり
ノ祈願○同廿七日より廿九日まで洛中ぞうん分番○五月
朔日に名代保科肥後守さんぐゝ名方より林長へ
太刀一腰綿五百把白銀五百枚本院へ太刀を
腰綿三百把白銀三百枚仙洞へ本院より女院へ
太刀一腰ゝゝ銀百把白銀弐百枚献上あり云々
ノ祈願の奴儀なり○同十七日より上洛天皇
寺ゝくゝ書ゝ○同廿四日雷鳴○六月廿日より江
戸山ものくゝ書ゝ九月十五日雷鳴○同廿一日か
ノ祈願ゝくゝ○七月十一日へいちろ

洛中にうに家ゝに米ゝ

○七月十八日の夜みの下より洛中家ゝに水
ふくゝ○同廿五日
宥慶院二ホ親王道祐大僧ノ○同廿一日より仙田小
むり不動ゝ日ゝ○八月廿一日へいち○八月廿三日
ノ夜玉生ノ中吊ゝ○九月八日の夜ノ月ゝ
大仏山きて九日の午ノ下刻より
山くゝ書ゝ○十一月十五日壬生地蔵堂修復
とは○同十六日大雲舎かこゝ○同廿七日糸ノ
ノ月日ノ数大和年糸ゝ○同廿九日ちゝ感業
和尚ゝ書ゝ○十二月七日糸ノ先ノ月土屋相模守江
戸へ向○同月四条ゝ大和橋ノ

須賀享五戊辰年

百四

今上皇帝

伝澤へ
仏門
宋五ノ宮ゝ

ノ母ノ松木大納言ゝ糸條御ノ内ノ

年四月廿八日より御ゝ一板三さんまて御即位あり
称萬ゝ歳
(臣)一條冬ゝ経 関白
(即)人皇の始り二ゝよ三百十五年

二月廿一日ろさめがい本願祈ゝ願ゝ○三月朔日か
小川通新長寺の食ゝ物ゝ
ゝり卯月廿四日まで
牡○月十五日さ長行
日新長流立拾弧雲和尚入院○月二日ゝ八日ま
で南都大仏敷てゝ
林寺ゝ内ゝ福院方日の長ゝ○月十五日女
一乃文農去洋光院ゝ義生ゝ○月廿四日ゝ五
月廿四日まで

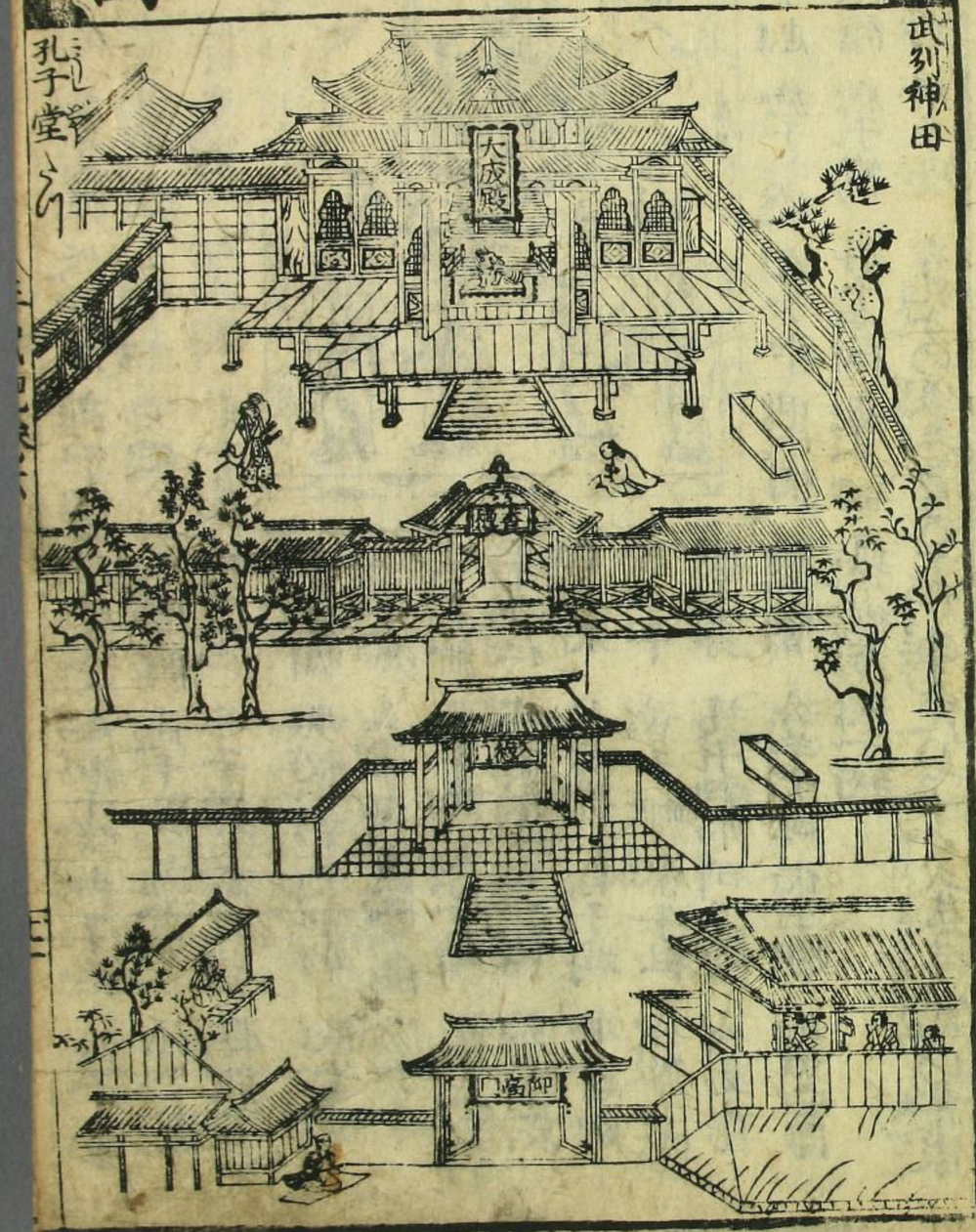
日ゝ六波羅のくゝんまゝ
条大納言ゝのひめ表義出家
山ゝれまゝて紙屋
三日一遍上人四百年忌ゝ
十六日長寿寺住持
禄ゝ号ゝ○月ゝ日大坂壹
廿六七日のゝろ家星未の方ゝ出ゝ
日ゝ廿二日まで大坂天王寺
○三月十五日ゝ
月八日ゝ谷住長
ゝ女紀刃く風野ゝ
六角堂ゝさゝろゝ
出去○九月十日侍所門文
○十月廿五日の夜ゝ

七月晦日宝祚○同四日二
条大納言ゝのひめ表義出家
ゝり始六日ゝ八日ゝ
○八月廿
ゝ来の寺くゝて修ゝ○九月
ゝ尚ゝ○月晦日改元
ゝ家ゝ月巳巳 元禄元
ゝ来の方ゝ出ゝ○二月朔
ゝ程大ゝ御所ゝ
ゝ寺くゝん冥ゝ○四
ゝ○月十九日ゝ編ゝつさた
ゝ所の記事ゝあゝて各所
ゝ○八月六日八条表
ゝ○十月廿五日ゝ月十三日外文四文
ゝ月ゝ日ゝ辰巳方ゝ

万日ノ会ノ図

○十一月廿二日より明年井上志摩寺へ去○十月
二日ゑちごの国五ヶ山へ出家富山へ出る
庚午三年　二月十三日近衛殿へ行ア○二月
十三日より廿二日まで大業の勅使太ふのいちろう○同廿
日より六月二日まで江戸三井寺の内正法院くりんゐ
ん様○三月三日より清水あさくらくりんゐ
様○同夜ひろおの瑞の方へ乾の方へ○同
十五日初夏院御五重常会御一方日の会ろう○同
日三条白川橋金剛寺へ行る二方日の会ろう○同十六ろう十
七日まで加賀金沢の町大火ろう○同廿二日より廿七日
まで極め上人洛陽四いぐりんじにて法ろう○同廿七
日より七月廿七日まで小岩倉の観音ろう○同廿新
日より六月八日まで泉涌寺四ぜんのうじのくりん
ゐん様○五月十一日五条内ビにけるりつらそめ

聖堂之畫圖



秦子冉　李良儒　任不齊　高子澤　漆雕從文　漆雕子哆　冉子季　伯子虞
冉子儒　梁子鱣　公西子赤　樊須　漆雕子開　商子瞿　南宮适　原子憲
澹臺滅明　奚容蔵　勾井疆　李子通　杜子春　毛子質　高堂子生　穀梁子赤

孔子忠　施子之常　秦子非　甲子根　左子丘明　步叔子乘　琴子牢　陳子亢
董仲舒　后子咎　胡子居仁　薛子瑄　公西子愚　公晳子輿　歐陽子脩　陽子時
司馬光　胡子瑗　在孔子の像系ろうハ十哲あとハ七十子ハ大成殿ハ門の畫像　陸子九淵　蔡子沈　許子衡　陳子獻章
王子守仁　宓子不齊　公冶長　公晳哀
高子攀　司馬耕　有子若　巫馬期
顔子辛　曾子皙　秦子祖　公孫子龍
顔子高　壤子駟赤　石作蜀　公夏首
顔子曾　公羊子高　伏子勝　孔子安國
真子德秀　張子祜

○八月廿一日わさこ白雲寺俊濃ゟ南〜○月十五日の
約洪ろ江ゟ出ろ宇治川の急まて所ハ
わいぶ江ろ水ハ石山のかりもひろ和いで湖
水ハ入○十月廿八日ハ夜ゟ下知ハ良ろ方ろ坤
の方へくろ雲山ハ根ろ山の根へ引○十一月廿
ハ夜ひ〜ぶ方ろ出さて上ハ〜ぶ〜ぶ一ぶ〜ぶる
○十二月十八日程ハ伽藍ハ二ハ親王遠祐堯去○月
廿七日系初ハ月ハ義大和寺死去○十二月九日系
町通ハ三賣上ハ丁ろ史いで東ハ六町南ハ二町
博ハ都大町数かよて二十町余家ろて九千軒余
辛未四年　二月十七日ろ北二月まで和刊法隆寺
ハ法ろうあり美濃法人ハ○三月二日ハ
浅寺夜上系○月二日系初ハ月ハ松平因幡守義
m上系○月十二日大坂ハ城代土岐伊勢ろ義ハ城入

○十二月法皇五百年忌の法事下寺町長福寺にて修せらる法皇御年四月四日
より受戒○同二日より清水の西陽尾寺のくうき寺
ゆ同日より東西山安如天の供四月廿五日受戒○同
廿二日入日より東の山のぼし○同廿日佛光寺の法隆寺
修復出来る○同廿六日の夜祇園護院の門の
まへ家十軒余やくるる門後冊波の山の町やる
○四月六日法花宗つの門数田寺つ佛像

○十三日
ちの六月三日まで春祥院天女のぐべは美京のい供○
五月十七日より一条草堂のくうき寺のい供○同月
三井寺円満院法親王御覆供門弘まり多○六月
十一日より大和の国法隆寺秋の除寺の美所な
らびに京京ごと洛陽四条通場まてのい供○同

月十七日肥後の国阿蘇山已の刻より午の下までく
らやくとあり石のうるあのどし月晋の嶽山の
池血とあり水のもの川よ流れいぐ雑魚死わまこ死て○
五月十八日江州石山寺くうき寺宛供○同洛陽わいの
町通下ちりに出水の習一町に民家と三条通西の町
くつまへらそのあと禁裏御築地の内廣小路とする
○八月唐ち貴船より女転ひろして出湯へさくろ同月よ
伯耆の浦へ出さ四拾間余の唐船ふさ来る○室八月十
二日に不日松平国番寺殿元出洛中月番○九月十
五日より出洛門弟よて今出一代一度のくうき供
○十一月六日ちくん院住持孤雲和尚遷化○同十三日洛
陽妙顕寺にて日像聖人三百五十年忌の法事あり
○同十四月京新地下代小笠原佐渡る殿入洛○十
二月二日江戸出ち町四丁目より日本橋まてやくる

○當年春ゟ戸律田より孔子堂ゟ引毎年釈奠ゟ
壬申五年　正月朔日日蝕○同月廿一日佛五寺高泉
和尚黄檗山へ入寺○二月六日鐘会光明寺の和尚
悲流へ入寺○同月洛陽ゟ町光明寺まで弥陀
三郎ださとめれ来宛帳○同月六日さが小倉山二尊
院より法然上人足袋乃御新ゟ べよ霊宝宛帳
○同月廿三日洛陽五条青蓮院ゟ象牙百彩余
やくの舟より三人来る宛帳○三月四日和州法隆寺い
帳○同月八日洛陽三十三番の二番目乃観音い帳○
同月八日ゟ四月八日まで南都大佛万僧くやうあり
導師浄土宗けいの上人より○同月十二日仁和寺
法親王灌頂ゟ 以上年 九一ゟ

右年代記元禄五年壬申五月まで之ものゝ外ハ沢新ハ加へ記ス
ゝ迄終ハ白紙数丁と落ハ山数年ゝ之ものゝ為ゝ

元禄五年壬申初夏吉日

江戸日本橋青物町　伏見屋　兵左衛門
大坂堺本町　伊勢屋　太良右衛門
京御幸町　伊賀屋　久兵衛
京寺町　吉野屋　次郎兵衛

仝梓